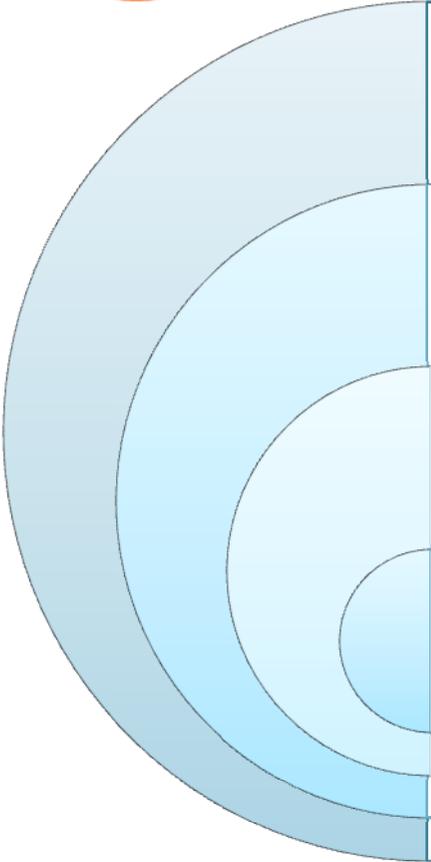


平成
28年度



浦安の子どもたちの
確かな学力の向上を目指して

浦安市学力調査結果

浦安市教育委員会

目次

小学校4年生 国語結果

P 4

小学校4年生 算数結果

P 12

中学校2年生 国語結果

P 19

中学校2年生 数学結果

P 27

中学校2年生 英語結果

P 34

調査の目的

- 市立各小・中学校児童生徒の学習指導要領に示された学力の定着状況を客観的に把握する。
- 調査結果を授業改善に生かすとともに、指導方法の改善を図る資料とし、個に応じた指導や確かな学力の向上を図る手立ての一助とする。

結果の取り扱いについて

- 調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを踏まえ、指導法の改善等に活用する。

小 4 国 語

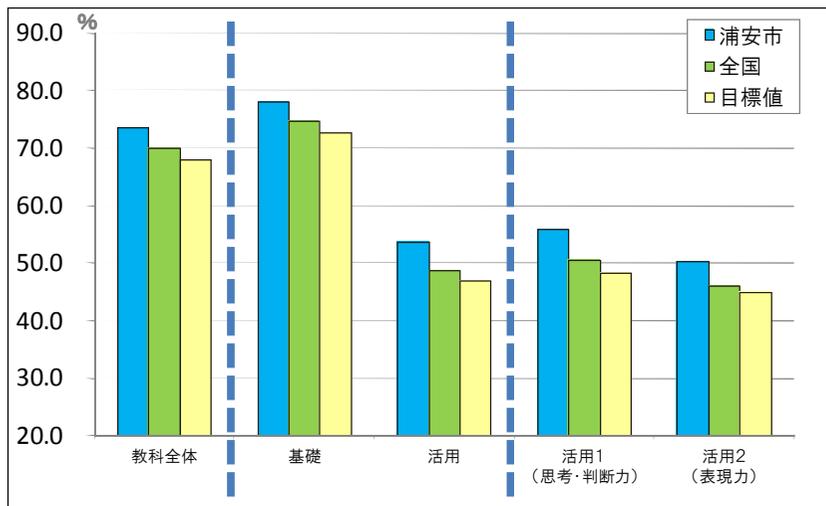


教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
	教科全体	74	70	68
基礎		78	75	73
		54	49	47
活用	思考・判断力	56	51	48
	表現力	50	46	45
観点	話す・聞く能力	75	72	70
	書く能力	64	61	60
	読む能力	71	66	62
	言語についての知識・理解・技能	75	72	71
領域	話すこと・聞くこと	79	76	73
	書くこと	68	65	64
	読むこと	72	67	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76	72	71

* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

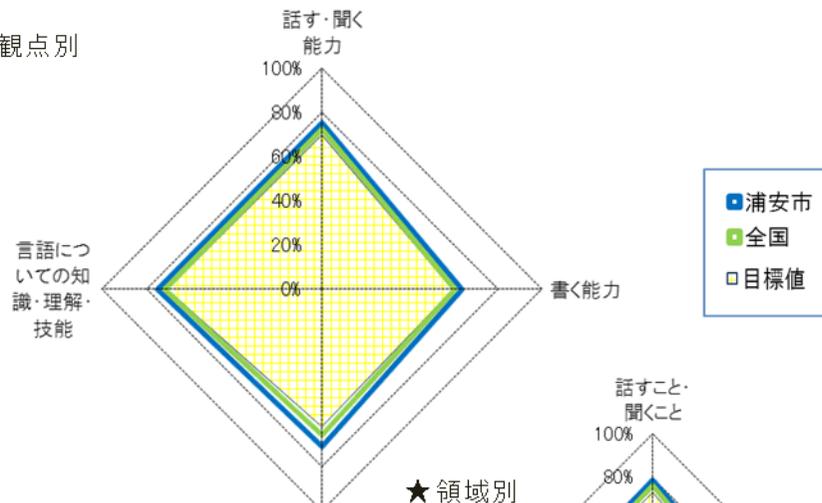
教科全体 基礎・活用別 正答率グラフ



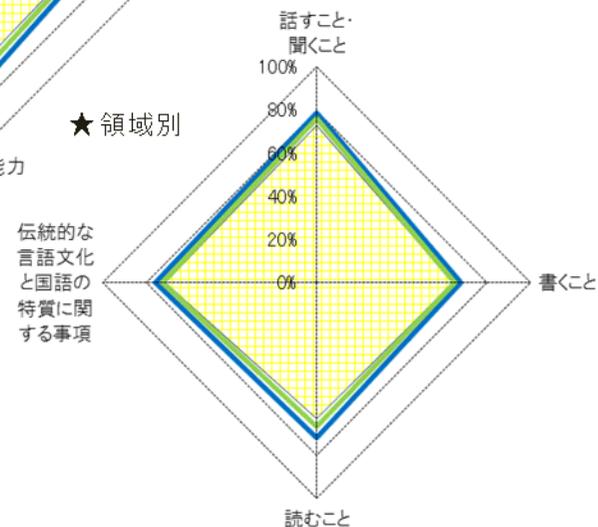
「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート

★ 観点別



★ 領域別



概要

浦安市の教科全体の正答率(74%)は、全国値(70%)を4ポイント上回っています。
また、すべての領域・観点で目標値・全国値を上回っていますが、正答率が70%に満たない領域・観点があります。

平成27年度と平成28年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H27年度			H28年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		76	71	68	74	70	68
観点	話す・聞く能力	80	77	73	75	72	70
	書く能力	72	65	63	64	61	60
	読む能力	72	65	61	71	66	62
	言語についての知識・理解・技能	77	73	71	75	72	71
領域	話すこと・聞くこと	80	77	73	79	76	73
	書くこと	77	70	68	68	65	64
	読むこと	72	65	61	72	67	63
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78	73	71	76	72	71

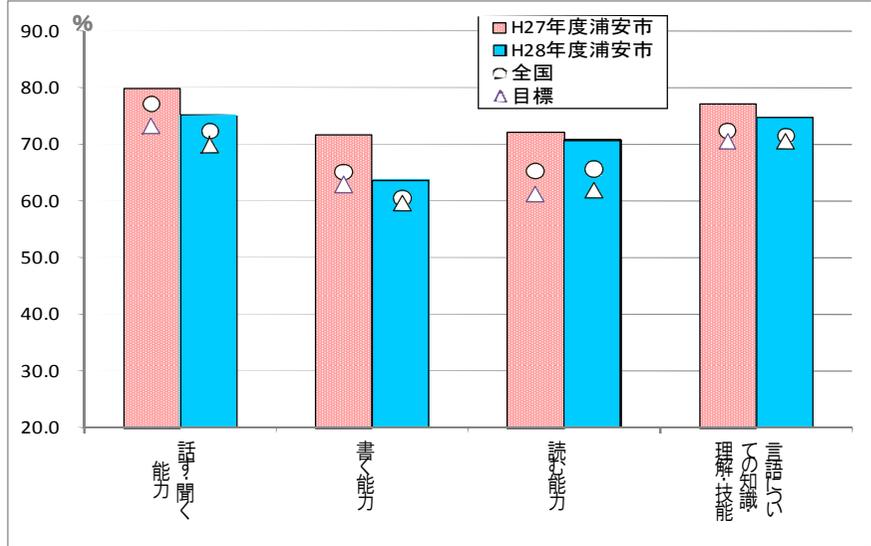
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注 釈

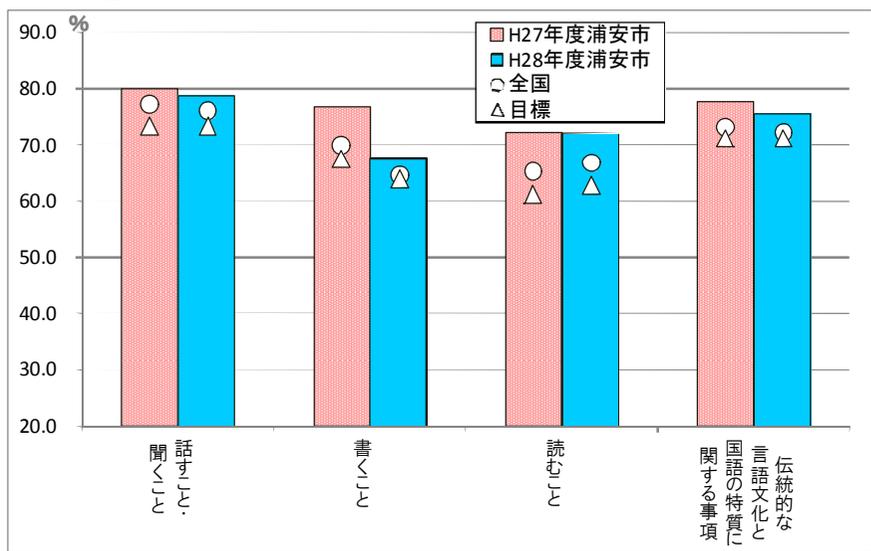
正答率を観点別にみると、H27年度と比べて「書く能力」の8ポイントをはじめ、すべての観点で前年度を下回っています。
 領域別も同様で、H27年度と比べて「書くこと」の9ポイントをはじめ、ほとんどの観点で前年度を下回っています。
 「書くこと」「書く能力」が小学校国語の課題と言えます。

平成27年度と平成28年度 経年比較グラフ

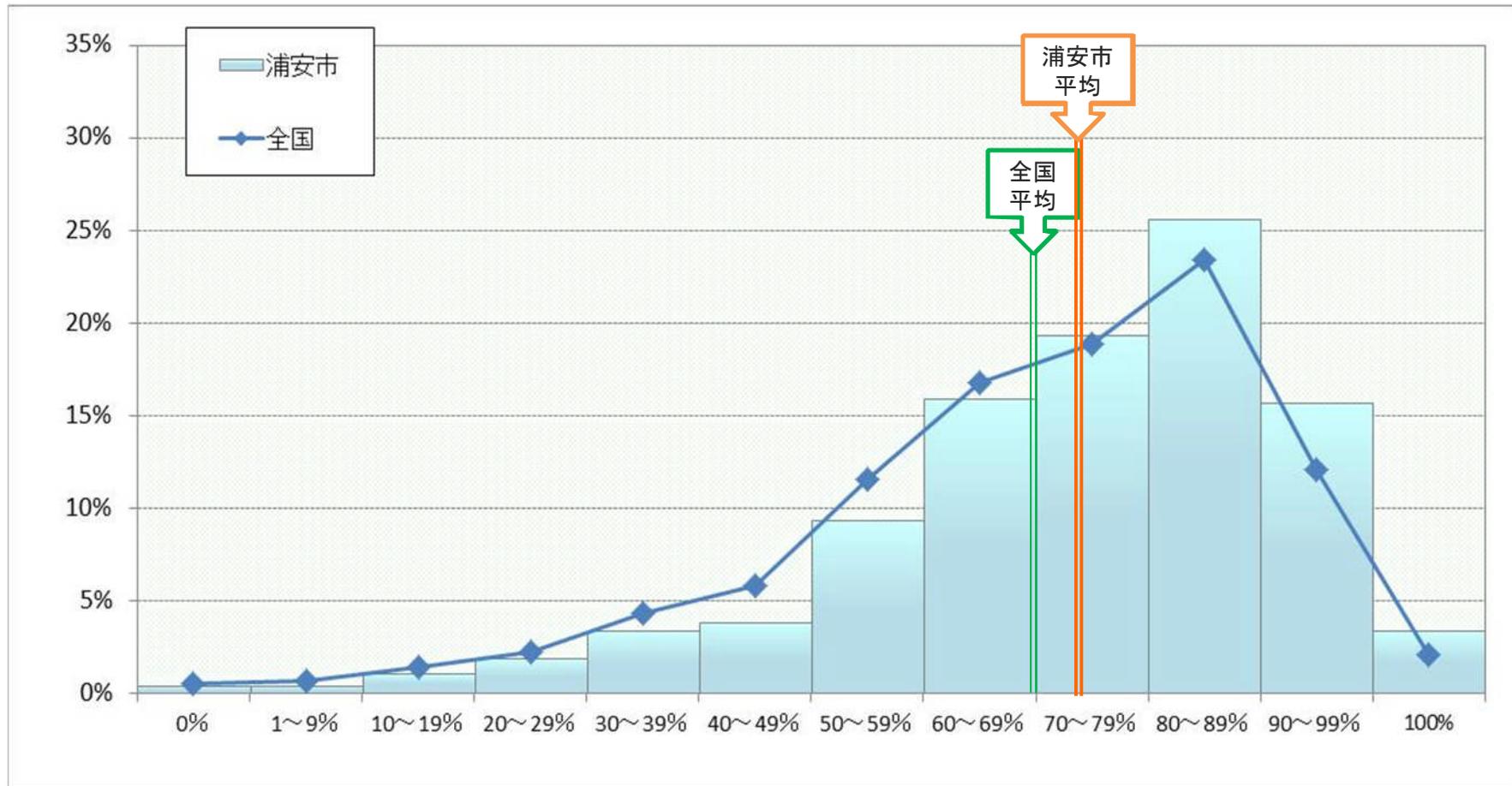
★観点別



★領域別



平成28年度 小学校4年国語 正答率分布グラフ



正答率分布
グラフ
について

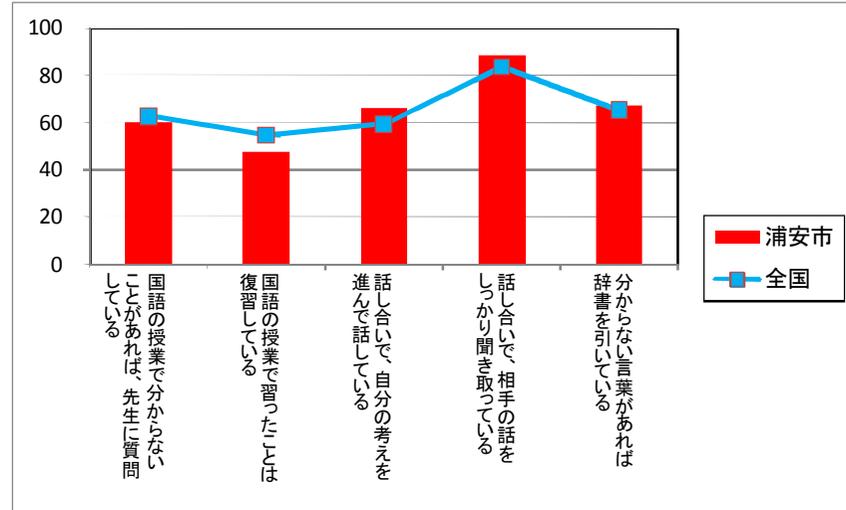
浦安市の小学校4年国語の正答率分布を見ると、正答率が80%~100%の児童の割合が全国よりやや上回っていることが分かります。

正答率が70%以上の児童の割合は、64%と半数を超え、全国(57%)を7ポイント上回っています。

平成28年度 小学校4年国語 質問紙調査結果

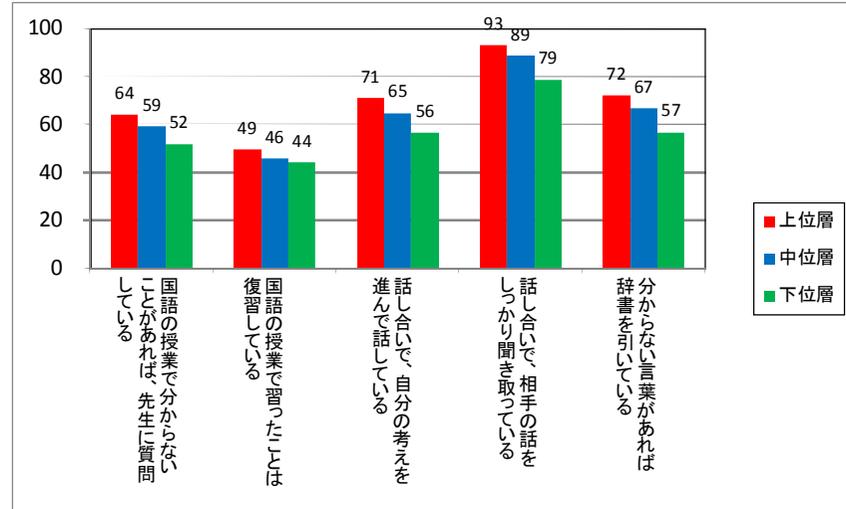
★浦安市全体と全国との比較

質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	60	63
国語の授業で習ったことは、復習をしている	48	55
話し合いで、自分の考えを進んで話している	67	60
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	89	84
分からない言葉があれば、辞書を引いている	67	65



★上位層と下位層の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	64	59	52	12
国語の授業で習ったことは、復習をしている	49	46	44	5
話し合いで、自分の考えを進んで話している	71	65	56	15
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	93	89	79	14
分からない言葉があれば、辞書を引いている	72	67	57	15

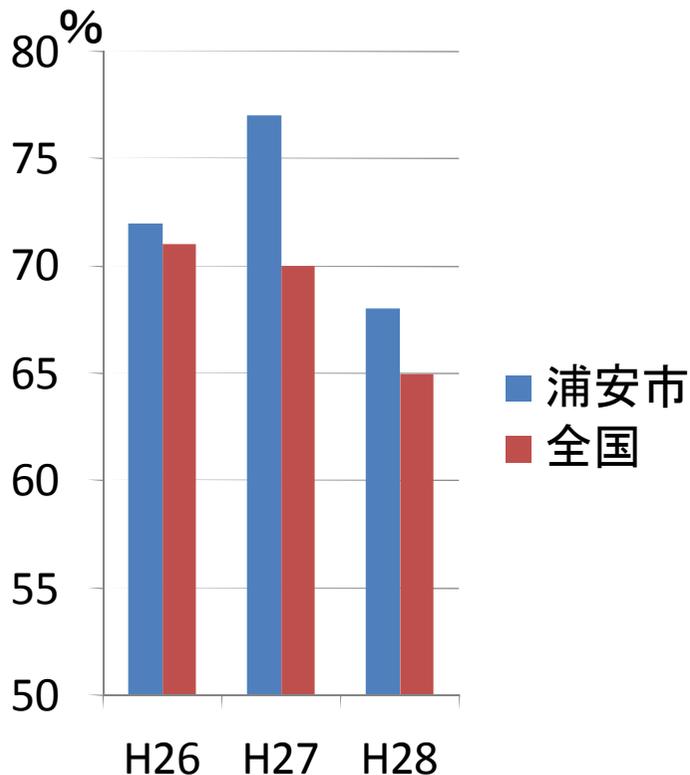


結果 について

「話し合いで、自分の考えを進んで話している」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」の割合が全国を上回っています。ただ、「国語の授業で習ったことは、復習をしている」の割合は全国を下回り、上位層と下位層の差も少なくなっています。

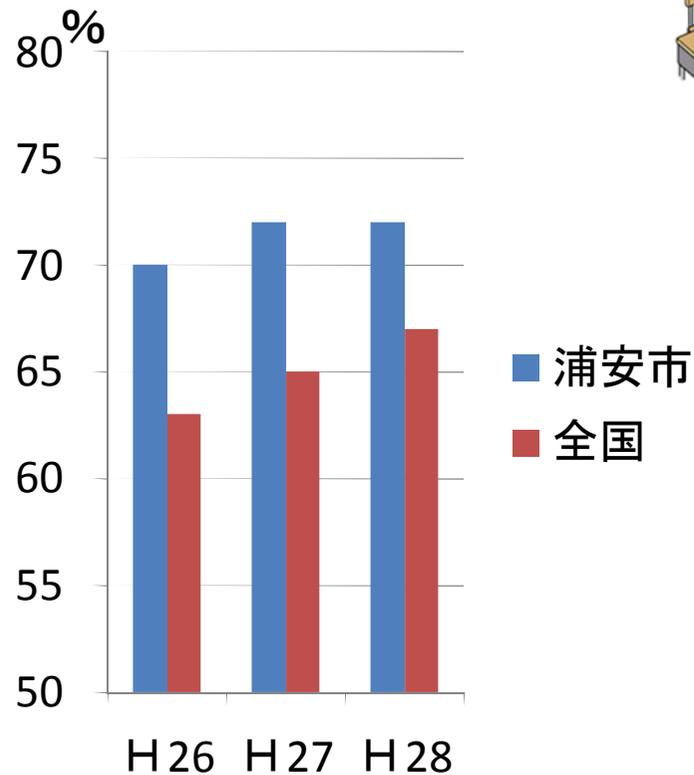
＜課題が見られる点＞

「書くこと」の領域



＜優れている点＞

「読むこと」の領域

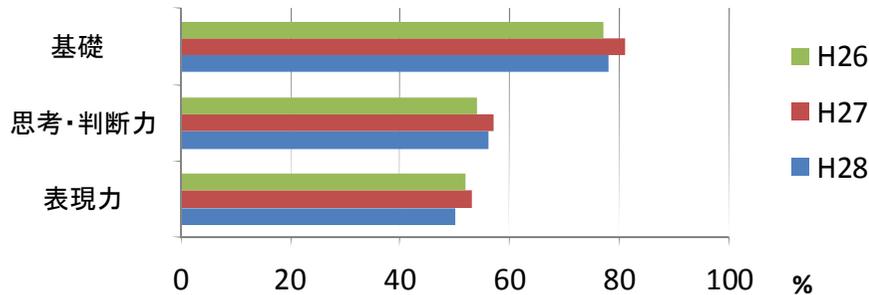


「書くこと」については、全国と比べて3ポイント上回っていますが、H27年度と比べると9ポイント下がりました。書くことについて、課題設定・構成・記述などについてスモールステップで丁寧に指導することが大切です。
「読むこと」についてはH27年度と比べて変化はありませんが、全国を5ポイント上回っています。

<課題が見られる点>

「表現力(活用)」

基礎・活用についての経年変化



表現力を見る設問の正答率(記述式)

設問	浦安	全国
話し合いの内容を聞き取り、空欄部分にふさわしい言葉を書き意見を完成させる。	47%	43%
表と文章を読み取って、適切な言葉を補って文章を書く。	54%	49%

「表現力(活用)」の正答率は、全国を上回っているものの、H28年度も教科全体の中で一番低くなっています。表現力を見る記述式の設問でも全国を上回っていますが、正答率が50%前後となっています。日常生活の中で語彙を増やしたり、様々な表現に触れさせたりするためにも、引き続き、読書活動の充実や新聞の活用などが必要です。

<指導改善例>



【日常の取組】

- 児童の実態を踏まえ、日常生活に必要とされる「記録・説明・報告・紹介・感想・討論など」の言語活動を設定
- 声に出して話す活動の日常化
 - ・教科書を音読(読み方を工夫して)する。
 - ・詩、短歌、俳句などを、学級で毎日音読する。
- 授業の実践例として
 - ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)を活用する。
 - ・「言語活動の充実に関する指導事例集(小学校版)」(千葉県教育委員会)を活用する。

【他教科との関連】

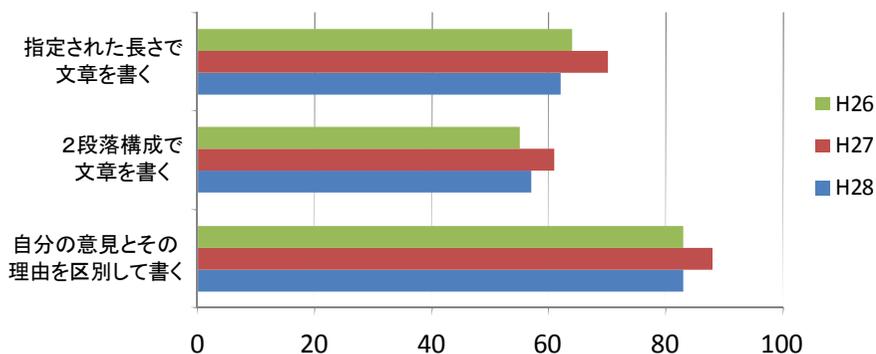
- 活用の場・検証の場として
 - 他教科で行われる言語活動に、国語科での学習を生かす。同時に、学習した内容が十分活用されているか評価する。
- 資料から読み取った内容を記述したり、資料をもとに説明したりする活動の導入



<指導改善例>

<課題が見られる点>

「作文」の出題のねらいごとの正答率



「作文」の出題のねらいごとの無答率

	H26	H27	H28
指定された長さで文章を書く	12%	9%	14%
2段落構成で文章を書く	12%	9%	14%
自分の意見とその理由を区別して書く	12%	9%	14%

「自分の意見とその理由を区別して書く」ことについての正答率は、H28年度はH27年度同様80%以上です。授業で根拠を明確にして意見を述べるという活動が定着してきていることがわかります。「指定された長さで書く」、「2段落構成で書く」ことについては、引き続き課題が見られます。無答率がH26年度から約1割を占めていることから、個別の指導についても充実させる必要があります。

【日常の取組】

○書く目的や意図を話し合い、文章の種類に合った構成を考える取組

例1) 見学したことを報告する。	例2) 本の紹介をする。
始め 目的や課題	始め 選んだ理由
中 見学したこと(事実)	中 心に残った場面
終わり わかったことや感想	終わり 伝えたいこと

○書く活動の日常化

- ・読書活動と結び付け、本の中から心に残った言葉や文章を視写する。
- ・ノート指導を充実させる。

○練習として

- ・「学びの突破口ガイド」を活用する。
例) 中学年版「本のしょうかい文を書こう(文の構成を考えて書く)」



【学校や学年全体での取組】

○学び合う場、発表する場としての掲示板の活用

- ・新聞記事についての感想文、本の紹介や調べたことをまとめたリーフレットなどを掲示する。

小 4 算 数

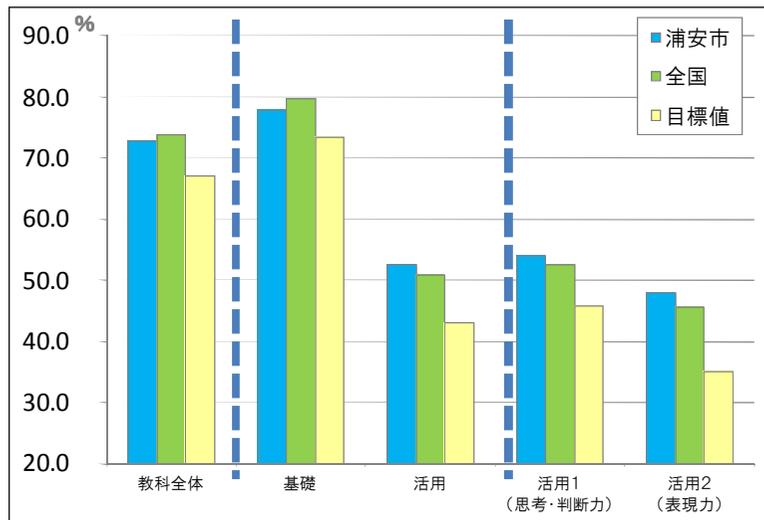


教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率(%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
	教科全体	73	74	67
	基礎	78	80	73
活用	思考・判断力	54	53	46
	表現力	48	46	35
観点	数学的な考え方	59	58	51
	数量や図形についての技能	76	77	71
	数量や図形についての知識・理解	74	75	68
領域	数と計算	73	74	68
	量と測定	75	75	71
	図形	62	63	58
	数量関係	77	78	67

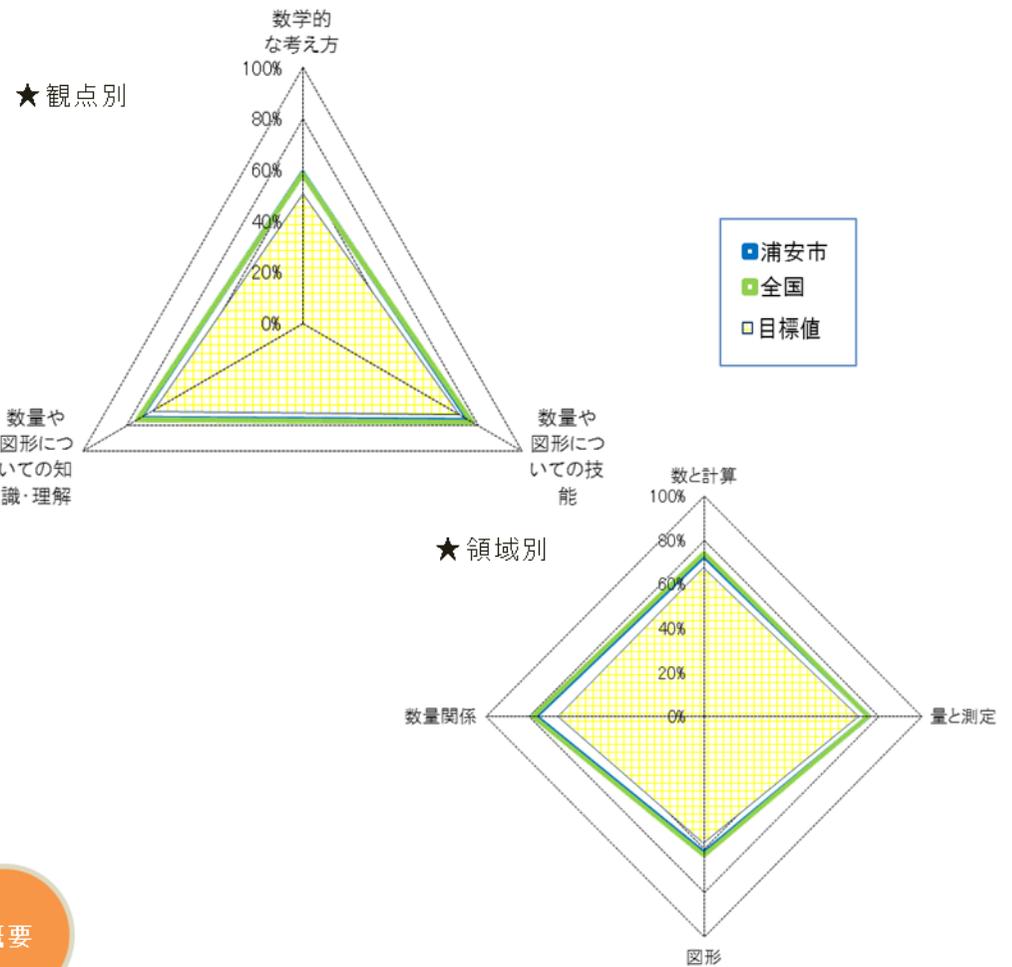
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用別 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

浦安市の教科全体の正答率は、目標値は超えているものの、全国値を1ポイント下回っています。観点「数学的な考え方」、領域「量と測定」以外は全国を下回る結果となっています。

昨年同様、「数と計算」領域の「2けた×2けた=3けた」のかけ算や「0を含む乗法」を苦手としている児童が多いようです。

平成27年度と平成28年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H27年度			H28年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		75	74	67	73	74	67
観点	数学的な考え方	61	58	51	59	58	51
	数量や図形についての技能	78	77	71	76	77	71
	数量や図形についての知識・理解	77	76	68	74	75	68
領域	数と計算	75	75	68	73	74	68
	量と測定	77	75	71	75	75	71
	図形	65	63	58	62	63	58
	数量関係	80	78	67	77	78	67

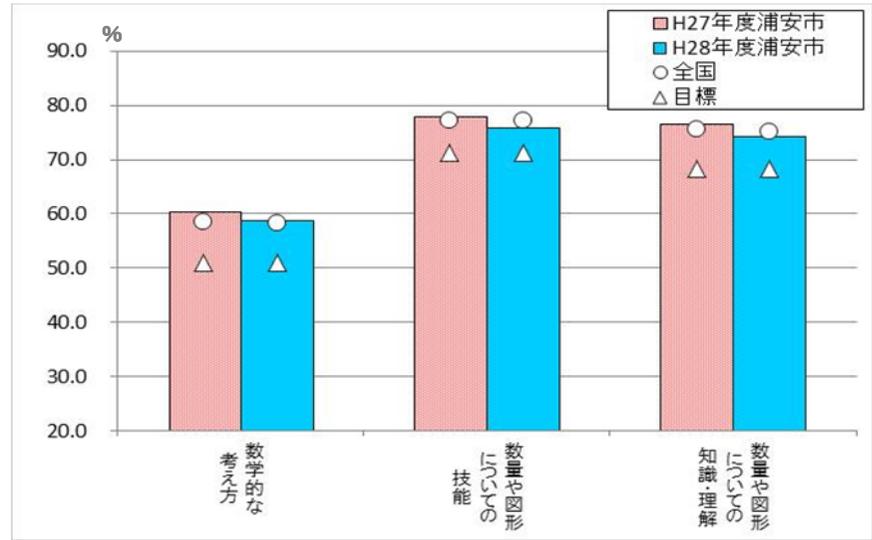
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注釈

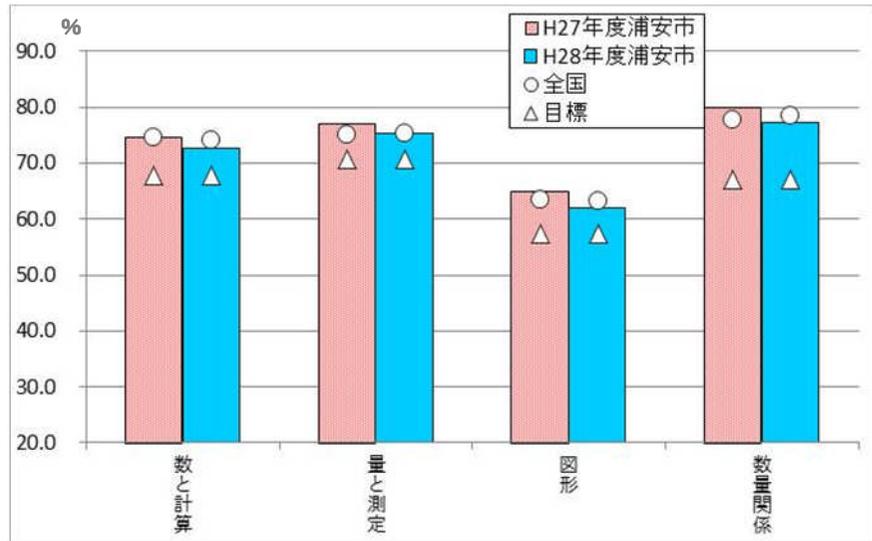
正答率を観点別にみると、H27年度と比べて、すべての観点においてわずかですが下回っています。
 領域別にみても、H27年度と比べて、すべての領域で昨年度を下回っています。

平成27年度と平成28年度 経年比較グラフ

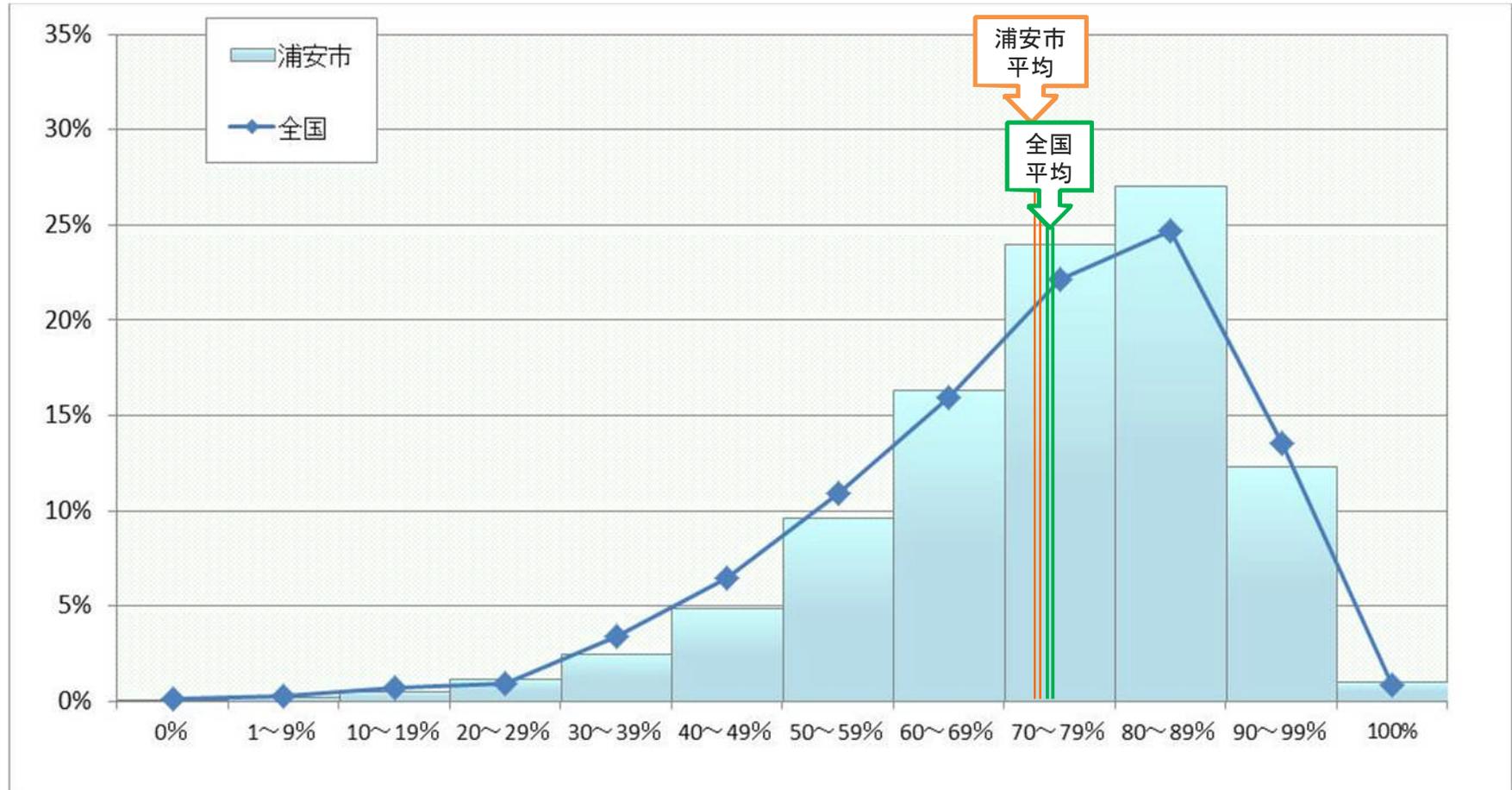
★観点別



★領域別



平成28年度 小学校4年算数 正答率分布グラフ



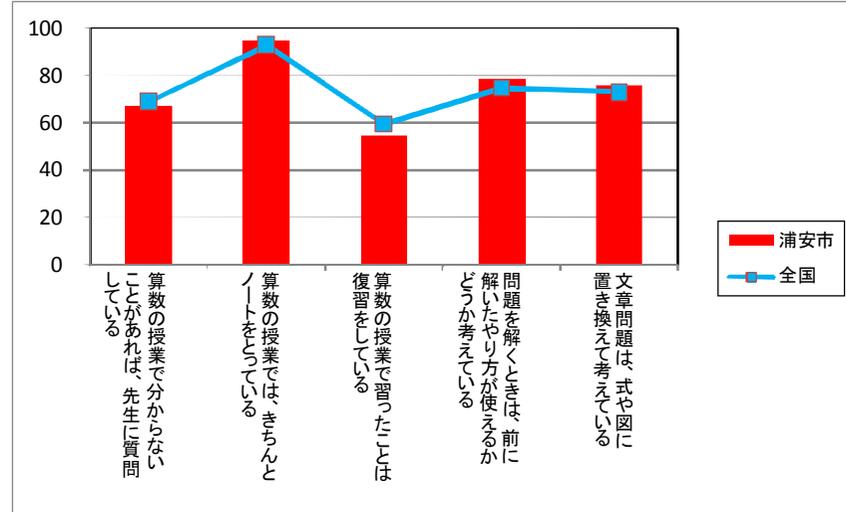
正答率分布
グラフ
について

浦安市の小学校4年算数の正答率分布をみると、正答率が90～99%の児童の割合については全国をわずかに下回っていますが、70～79%、80～89%の割合は全国を上回っています。
正答率が70%以上の児童の割合は、64%と半数を超え、全国(61%)を3ポイント上回っています。

平成28年度 小学校4年算数 質問紙調査結果

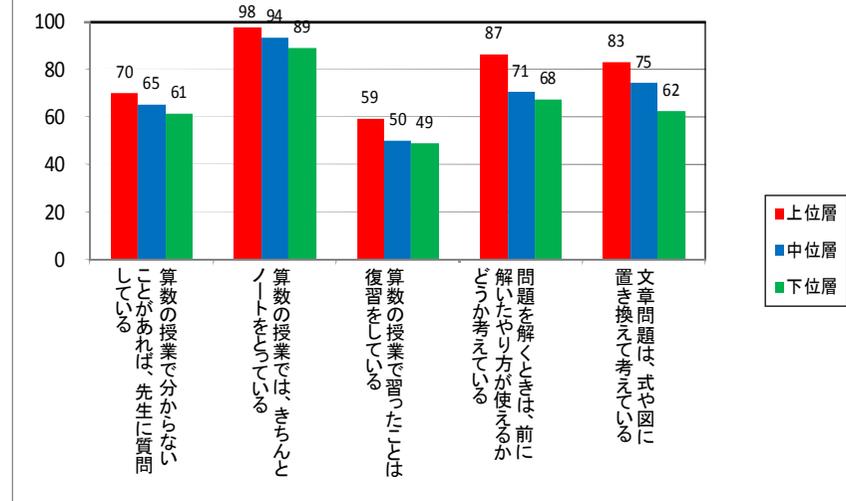
★浦安市全体と全国との比較

質問	浦安市	全国
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	67	69
算数の授業では、きちんとノートをとっている	95	93
算数の授業で習ったことは、復習をしている	55	60
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	79	75
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	76	73



★上位層と下位層の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	70	65	61	9
算数の授業では、きちんとノートをとっている	98	94	89	9
算数の授業で習ったことは、復習をしている	59	50	49	10
問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている	87	71	68	19
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	83	75	62	21

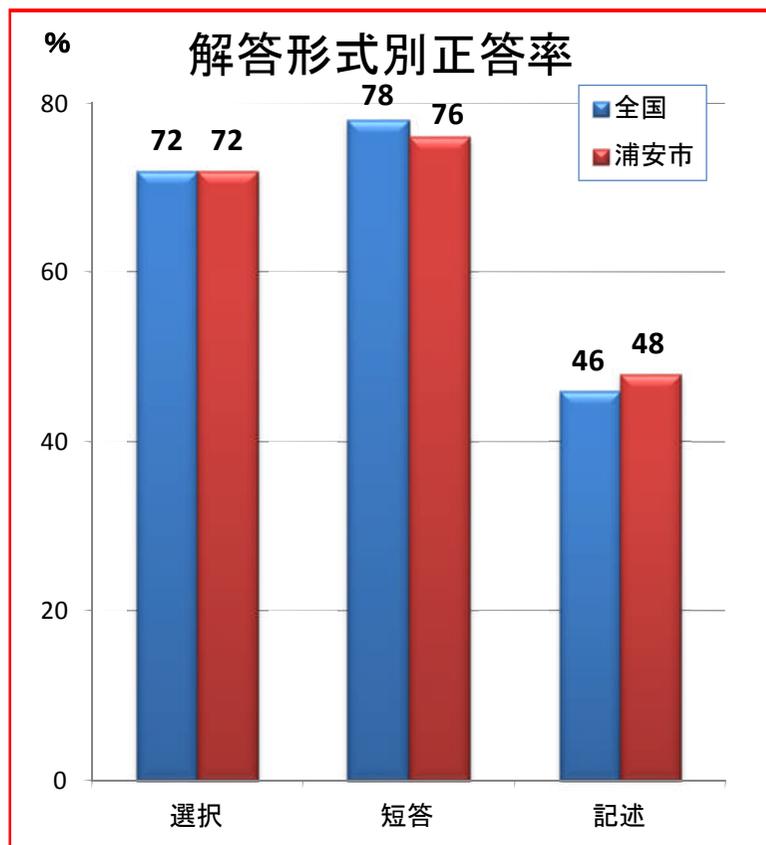


結果 について

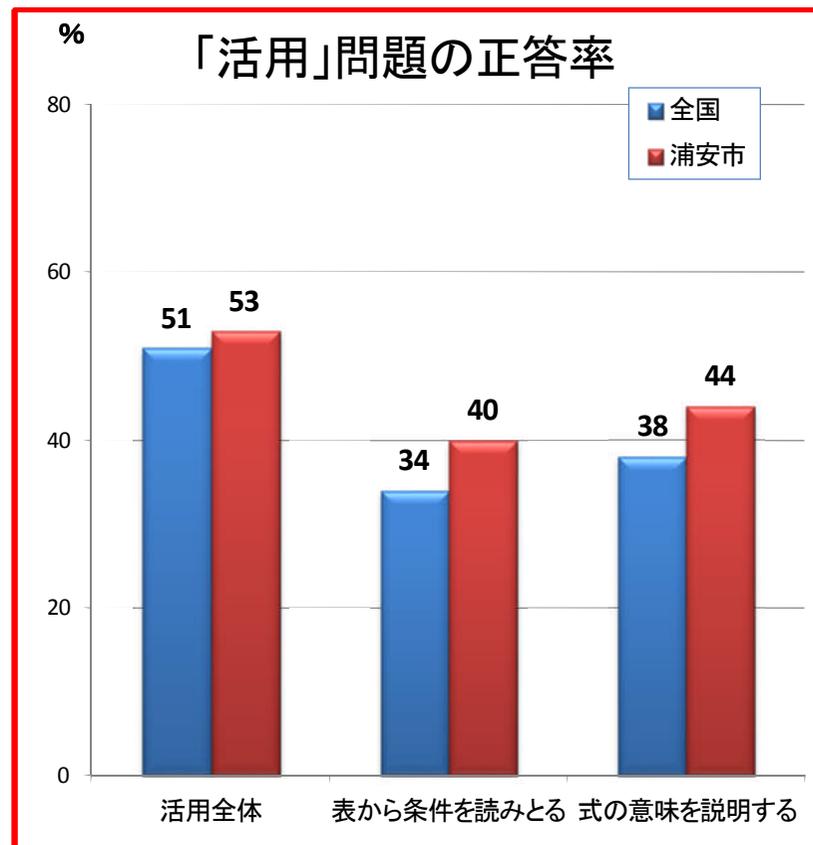
「算数の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている」「算数の授業で習ったことは、復習をしている」の割合が全国を下回っています。また、上位層と下位層の差に着目すると、「問題を解くときは、前に解いたやり方が使えるかどうか考えている」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」の割合に特に大きな差があります。

<優れている点・改善が見られた点>

【「記述」で解答する問題の正答率が全国より高い】



【「活用」の正答率が全国より高い】

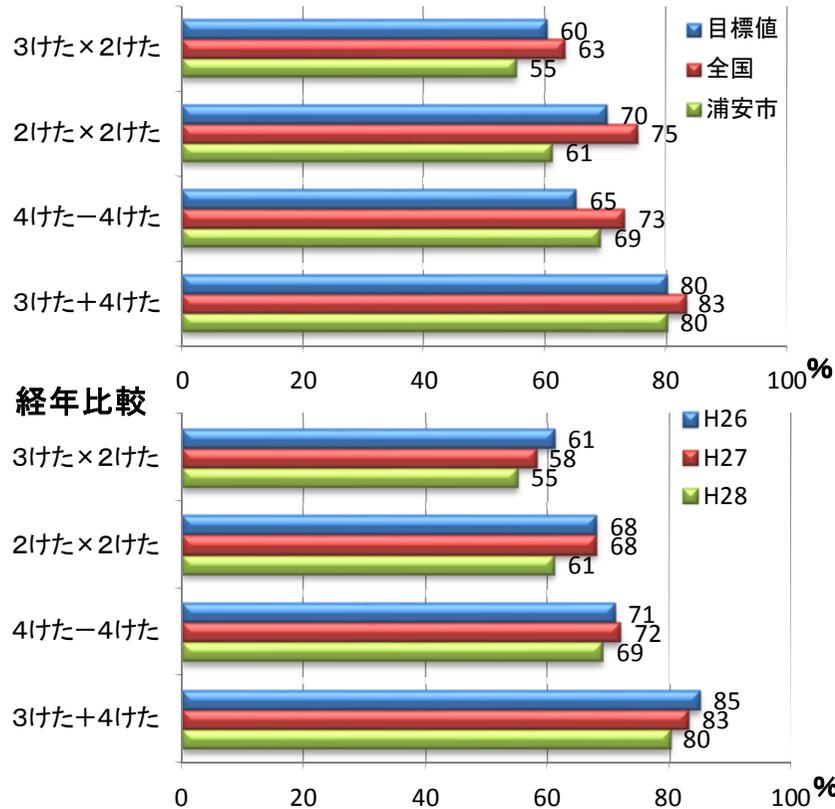


解答形式が「選択」や「短答」形式の問題の正答率では全国と比べて同等または下回っているのに対し、「記述」形式の問題では2ポイント上回っています。教科を超えた「書く」能力向上のための取組の様子がうかがえます。

また、「活用」問題の正答率は全国より高く、特に「表から条件を読みとる」「式の意味を説明する」問題は、全国に比べて5ポイント以上上回っています。

<課題が見られる点>

「数と計算」領域を苦手とする児童がいる



正答率はほとんどの問題で昨年度と同等または下回っていますが、特に、「2けた×2けた」「3けた×2けた」の計算は、昨年度・一昨年度に引き続き目標値を下回っています。また、繰り上がりや繰り下がりのある「3けた+4けた」「4けた-4けた」の計算も、正答率は昨年度より3ポイント以上下回りました。いずれも「数と計算」領域で、計算方法の習熟とともに、既習の内容をもとにして計算の仕方を考えたり、計算の結果を振り返って確かめたりする活動が大切です。

<指導改善例>

【日常の取組】

- 場面や状況に応じて、計算の結果を適切に見積もる活動
例) 増える、減る。
1より大きくなる、小さくなる。
およそ □になる。□よりも小さくなる。
- 計算の仕方を見通し、考える活動
例) 十進位取り記数法や九九などを基にして筆算の方法を考える。
- 計算の結果を振り返って確かめる活動
例) 整数の加法や減法を例に挙げ、計算の結果を確かめる方法について確認する。
- 少人数指導・学習形態の工夫
例) 習熟場面での習熟度別学習を実施する。
- 児童のつまずきの的確な把握



中 2 国 語

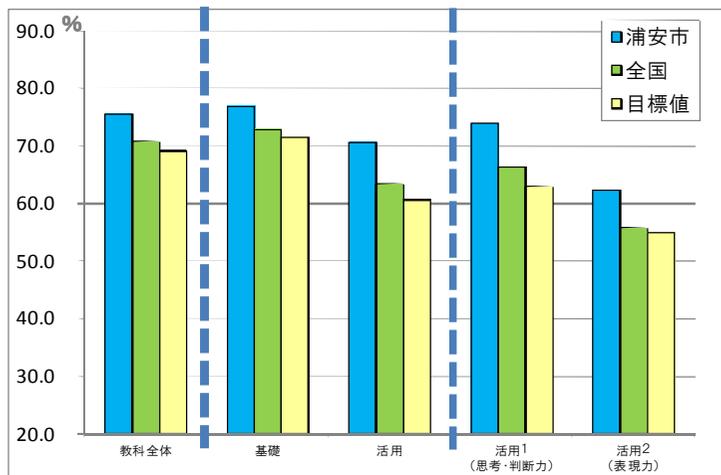


教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
	教科全体	76	71	69
	基礎	77	73	72
	活用	71	63	61
	思考・判断力	74	66	63
	表現力	62	56	55
観点	話す・聞く能力	84	81	78
	書く能力	76	73	71
	読む能力	74	67	64
	言語についての知識・理解・技能	73	68	69
領域	話すこと・聞くこと	84	81	78
	書くこと	79	76	74
	読むこと	74	67	64
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73	68	69

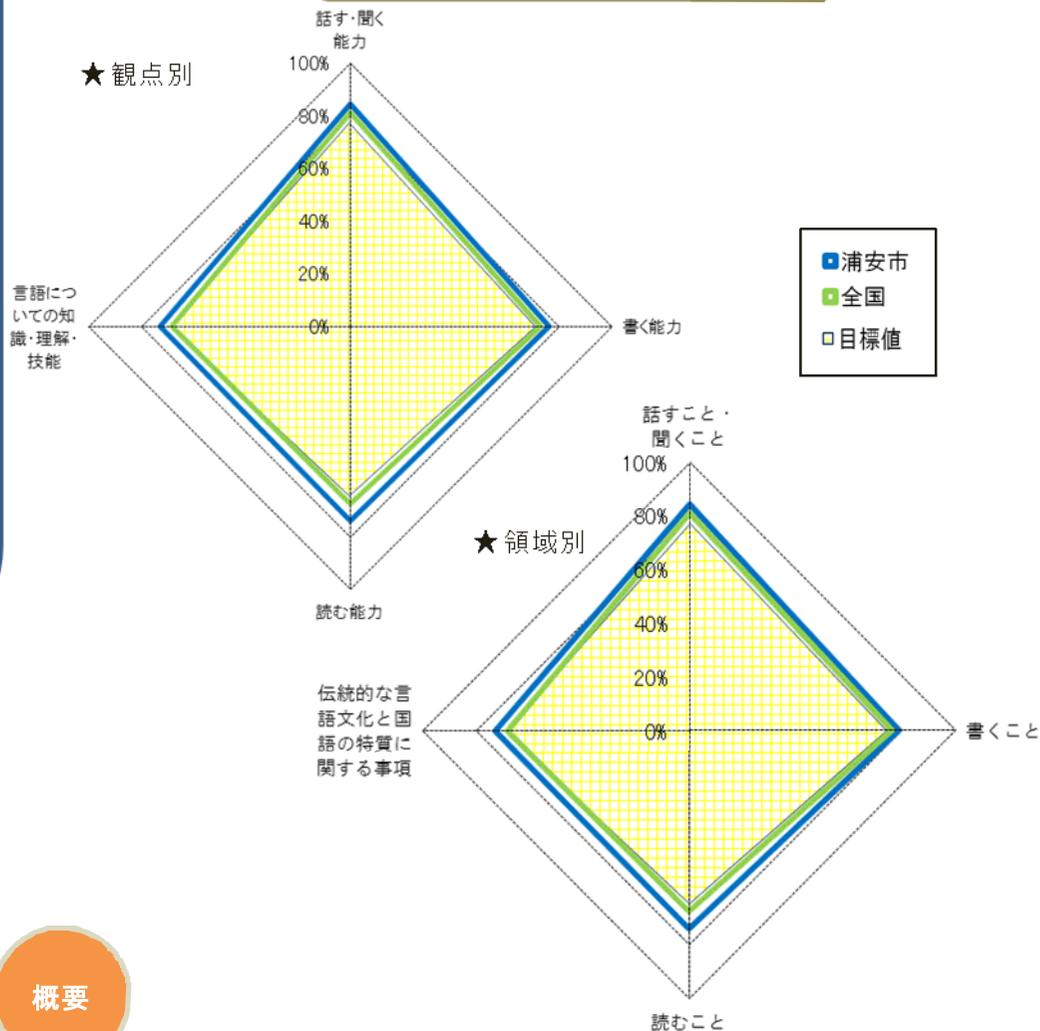
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用別 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

浦安市の教科全体の正答率(76%)は、全国値(71%)を5ポイント上回っています。「基礎」・「活用」ともに目標値を5ポイント以上上回っています。

すべての観点、領域で全国値・目標値を上回っており、大変良好な状況です。

参考

平成27年度と平成28年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H27年度			H28年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		75	71	69	76	71	69
観点	話す・聞く能力	85	81	78	84	81	78
	書く能力	76	72	71	76	73	71
	読む能力	73	67	64	74	67	64
	言語についての知識・理解・技能	72	70	69	73	68	69
領域	話すこと・聞くこと	85	81	78	84	81	78
	書くこと	79	76	74	79	76	74
	読むこと	73	67	64	74	67	64
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72	70	69	73	68	69

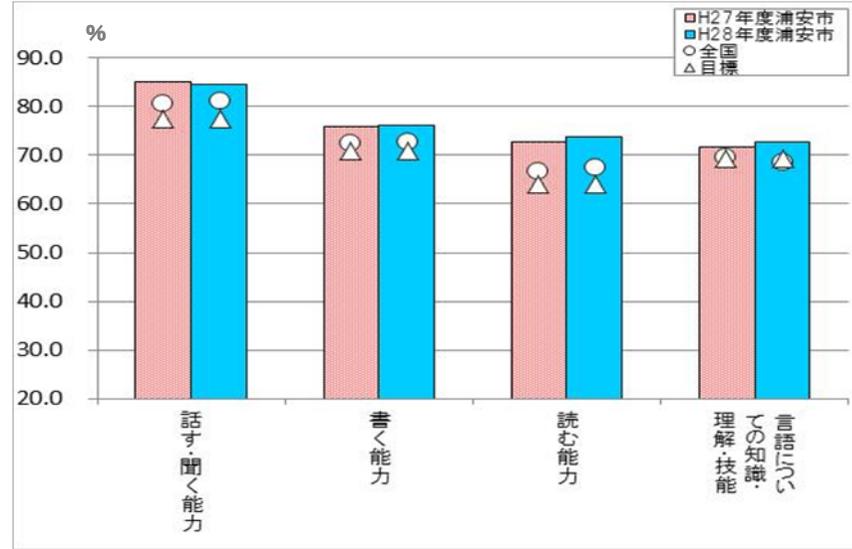
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注釈

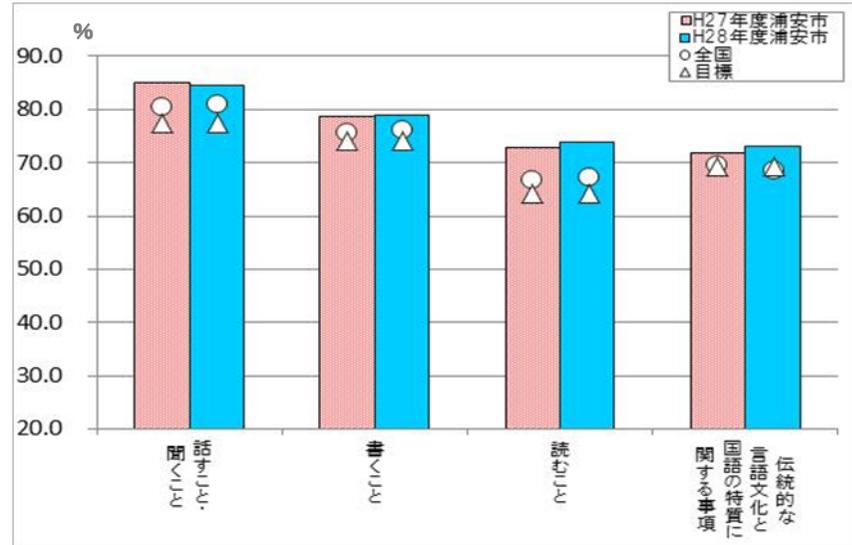
正答率は、観点別・領域別ともに、H27年度と比べてほぼ同程度となっています。全国と比べるとH27年度は2～6ポイント上回り、H28年度は3～7ポイント上回っています。正答率はすべての観点・領域で7割以上と良好な結果です。

平成27年度と平成28年度 経年比較グラフ

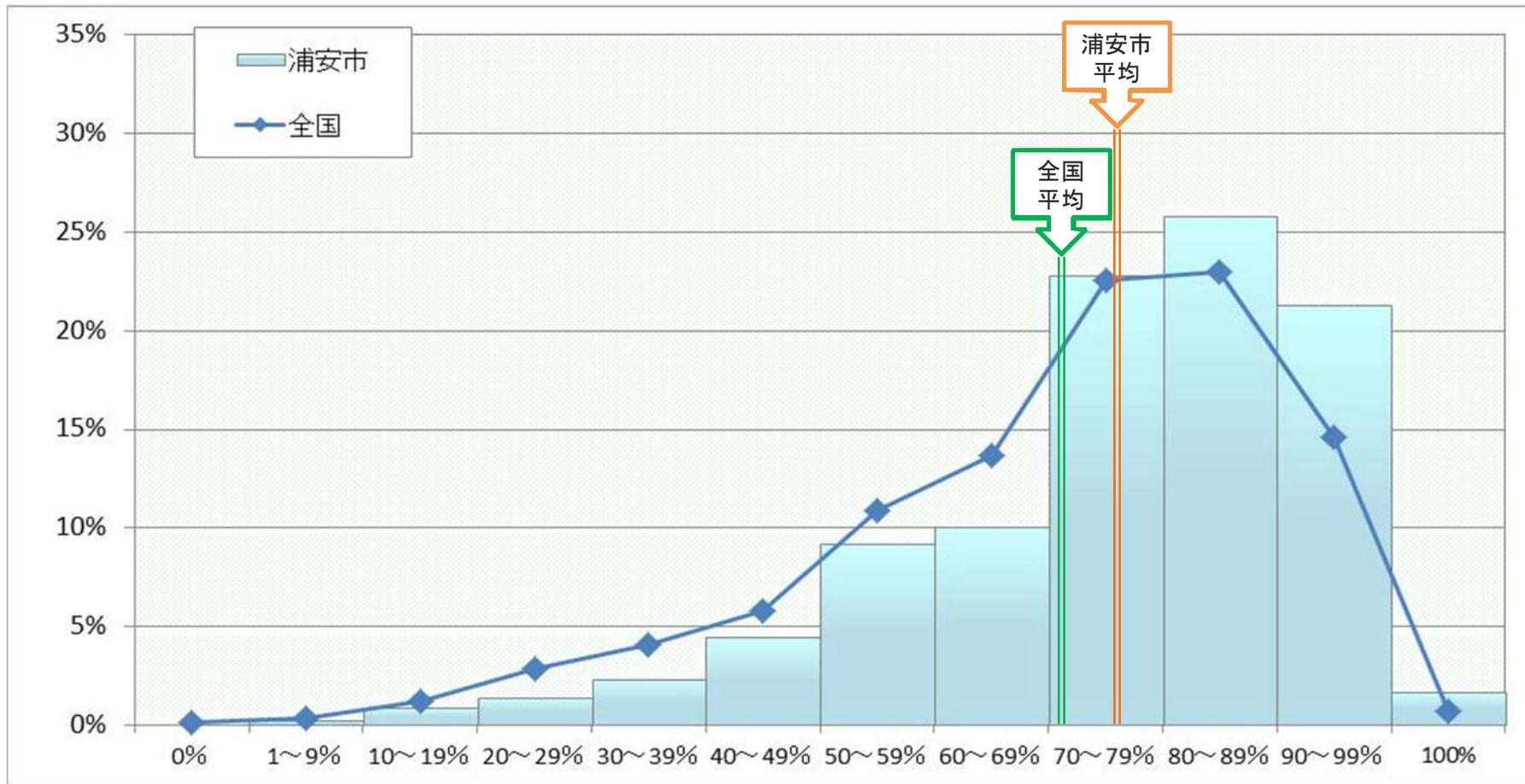
★観点別



★領域別



平成28年度 中学校2年国語 正答率分布グラフ



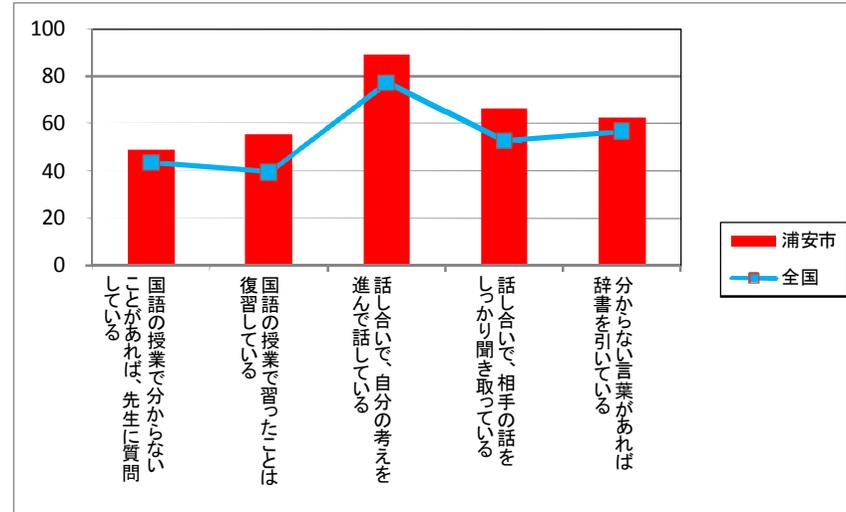
正答率分布
グラフ
について

浦安市の中学校2年国語の正答率分布をみると、正答率が80~100%の生徒の割合が全国を上回っており、良好な結果と言えます。
正答率が70%以上の生徒の割合は、72%と高く、全国(61%)を11ポイント上回っています。

平成28年度 中学校2年国語 質問紙調査結果

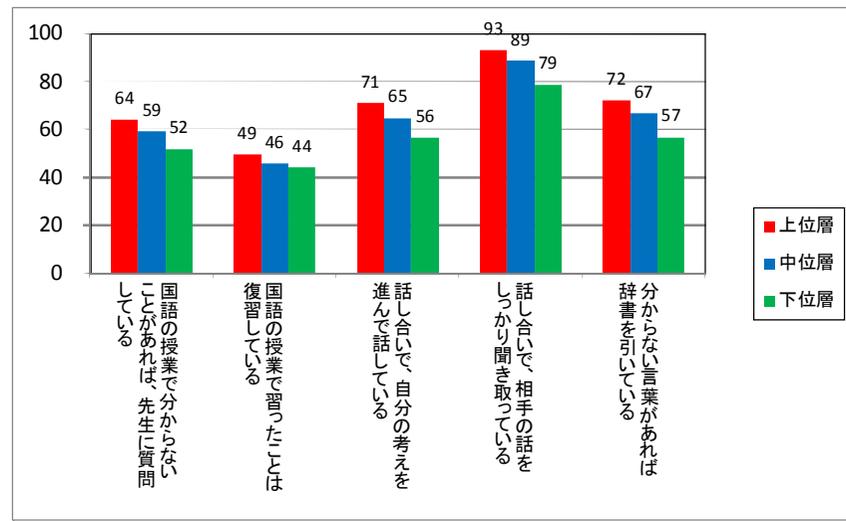
★浦安市全体と全国との比較

質問	浦安市	全国
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	49	44
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	55	40
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	89	77
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	67	53
分からない言葉があれば、辞書を引いている	62	57



★上位層と下位層の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
国語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	52	48	41	11
話し合いで、自分の考えを積極的に話している	63	50	38	25
話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている	93	86	80	13
伝えたいことを明確にして、文章を書いている	77	57	44	33
分からない言葉があれば、辞書を引いている	69	55	49	20

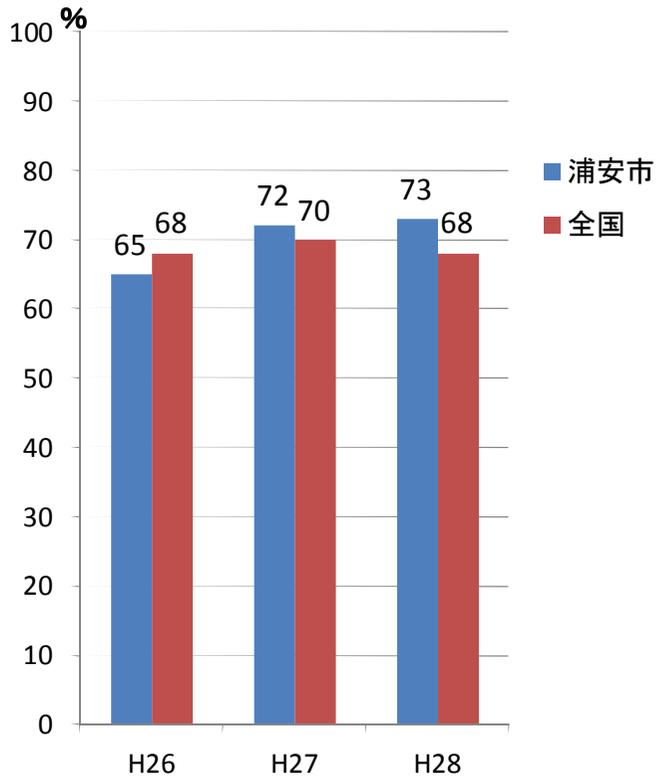


結果 について

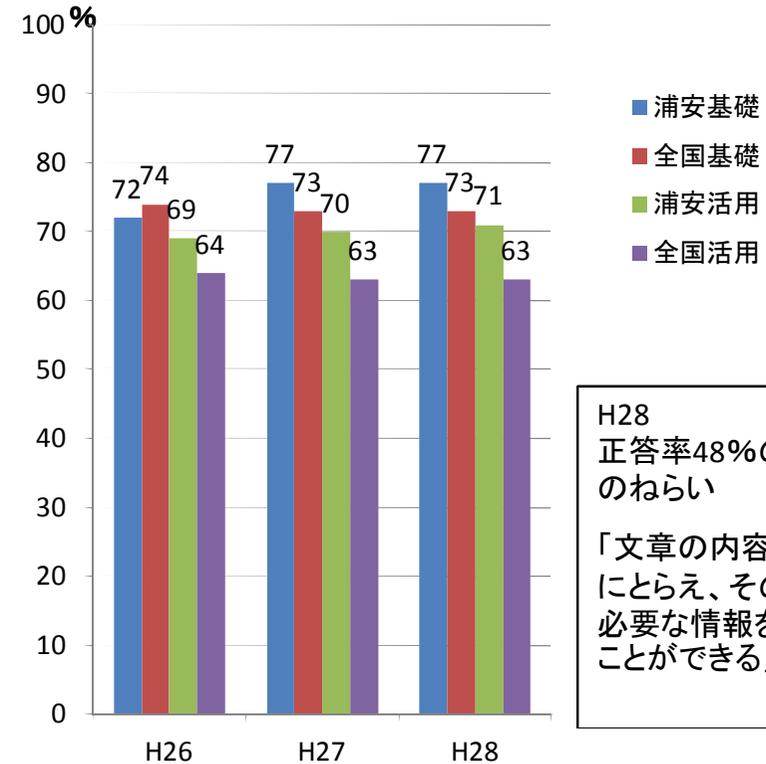
肯定的な回答の割合について、浦安市と全国を比べると、どの項目も全国を上回り、「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている」「伝えたいことを明確にして、文章を書いている」の割合が特に大きく上回っています。ただ、上位層と下位層の差に着目すると、「伝えたいことを明確にして文章を書いている」の割合に特に大きな差があります。

<改善が見られた点>

【言語についての知識・理解・技能】



【基礎】と【活用】



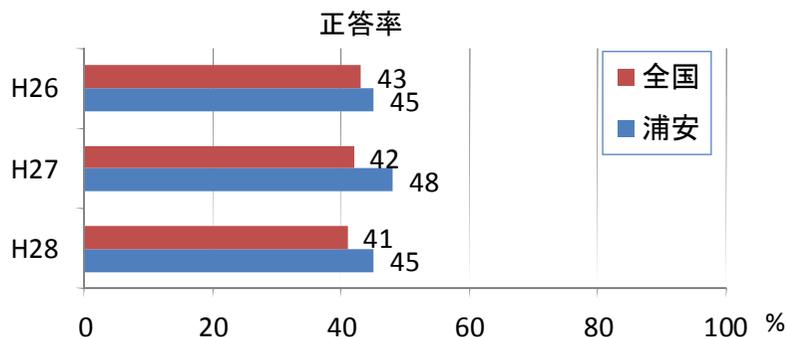
H28
正答率48%の設問のねらい
「文章の内容を正確にとらえ、その中から必要な情報を集めることができる」

「言語についての知識・理解・技能」は、年々正答率が高まっています。「書くこと」や「話すこと・聞くこと」「読むこと」の指導の中で、言葉の特徴やきまり、漢字に関して関連を図った指導が続けられていることがわかります。H28年度の「活用」は全国に比べ8ポイント上回りました。しかし、「活用」を見る設問の中に正答率が50%に満たない設問がありました。

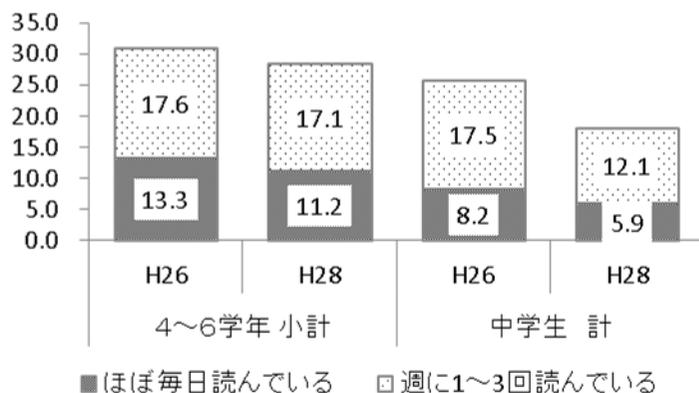
< 課題が見られる点 >

文章の中から必要な情報を集める(活用)

設問のねらい: 文章(新聞記事)の内容を正確にとらえ、そこから必要な情報を集めることができる。



新聞を読む回数(H28浦安市生活実態調査より)



「文章の内容を正確にとらえ、必要な情報を集めることができる」ことをねらいとした設問の正答率は、全国を上回っているものの50%に満たない状況です。課題解決のための情報収集の方法を身に付ける必要があります。新聞を読むことが習慣になっている生徒の割合も減っていることから、授業での積極的な新聞の活用が望まれます。

< 指導改善例 >

【日常の取組】

- 必要な情報を集めるための方法を身に付ける
例)興味を持ったことなどを基に課題を設定し、見通しをもち、課題解決のために情報収集する。
 - ・課題設定
 - ・情報収集の方法を複数考える。
 - ・情報を整理し、必要に応じて再収集する。
- 「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)の活用
- 情報センターとして学校図書館を位置づける
 - ・新聞コーナーを学校図書館内に設置する。
 - ・学校司書と協働し、図書室を活用した調べ学習を推進する。
- 確かな学びの早道「読書」実践記録集(千葉県教育委員会)の活用

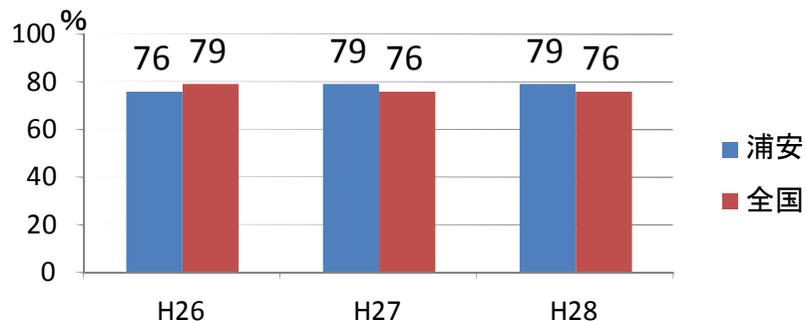
【学年や学校全体での取組】

- 新聞の活用
例)記事やデータを授業の資料として活用する。
記事の感想を掲示する。

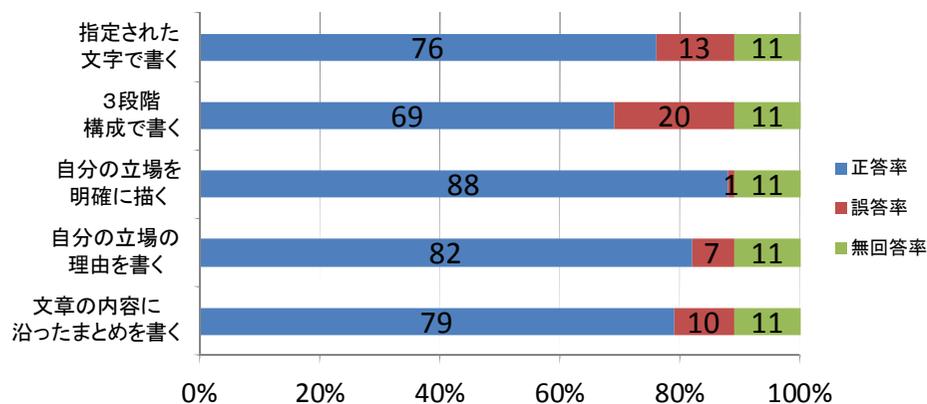


<更に伸ばしたい領域>

「書くこと」の正答率(経年変化)



作文に関する設問の状況



<指導改善例>

【日常の取組】

○書く単元の系統性を確認し、単元で身に付けさせたい力を明確にした授業

- ・①～⑤の指導事項を年間計画に明記する。
①課題設定・取材 ②構成 ③記述 ④推敲 ⑤交流
- ・設定した評価規準に基づいて評価を行い、指導計画を検証する。
- ・身に付いた能力の定着を図るため、国語科や他教科で、繰り返し取り組める場を設定する。

○授業の実践例として

- ・「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」(国立教育政策研究所教育課程研究センター)を活用する。

【学年や学校全体での取組】

○書くことに目的意識・相手意識をもたせる手立て

- ・学校で読書感想文コンクールなどに積極的に取り組む。
- ・小中連携・一貫教育として、小学生に中学校を紹介する。

例) 行事新聞を小学校に掲示する。

合唱祭への招待状を書く。

「書くこと」の正答率は、昨年度は前年度に比べて3ポイント上回りましたが、今年度は横ばいです。作文に関する設問をみるとおおむね良好ですが、3段階構成で書く設問の正答率は70%に満たない状況です。また、無回答率もすべての設問で11%となっています。スモールステップでの丁寧な指導が必要です。



中 2 数 学

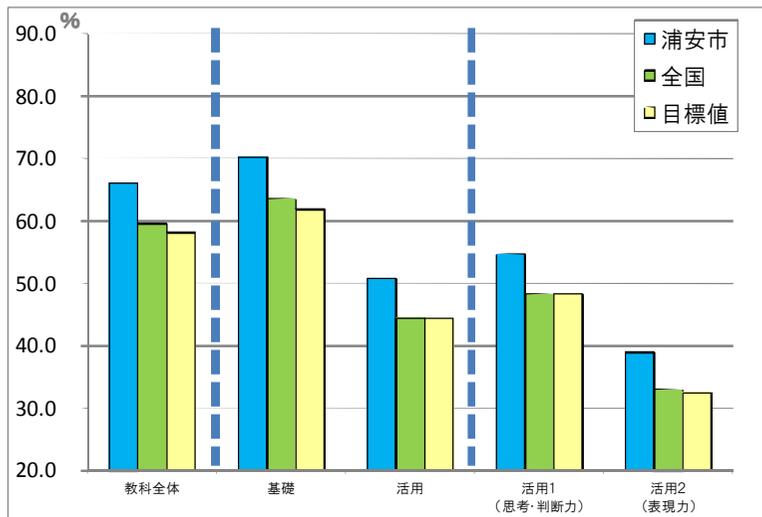


教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		66	60	58
基礎		70	64	62
活用	思考・判断力	51	44	44
	表現力	55	48	48
観点	数学的な見方や考え方	53	46	46
	数学的な技能	72	64	62
	数量や図形などについての知識・理解	62	57	56
領域	数と式	74	66	63
	図形	67	61	59
	関数	63	58	59
	資料の活用	47	45	44

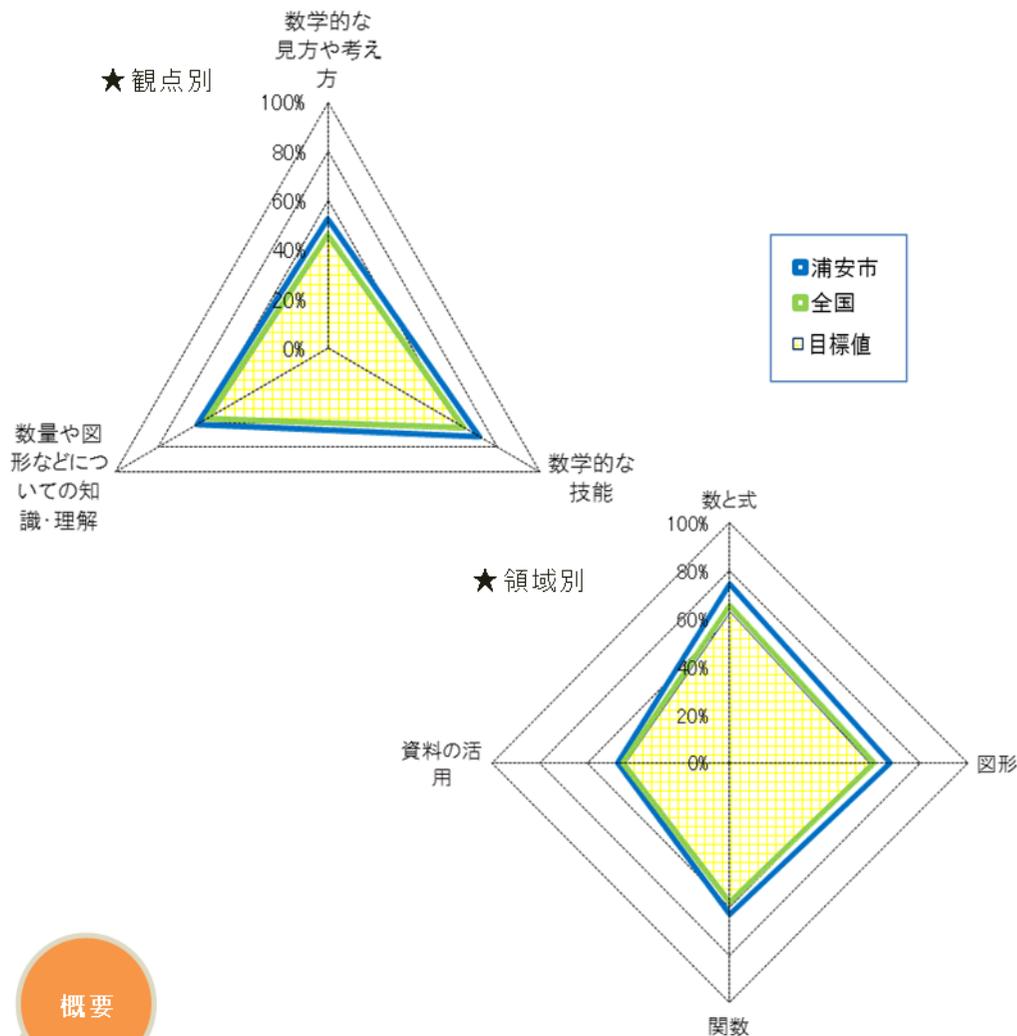
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用別 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

浦安市の教科全体の正答率(66%)は、全国値(60%)を6ポイント上回っています。
 昨年度課題のあった、「資料の活用」の領域も、全国値・目標値を上回り、指導の充実がうかがえます。

平成27年度と平成28年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H27年度			H28年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		66	60	58	66	60	58
観点	数学的な見方や考え方	52	46	46	53	46	46
	数学的な技能	71	65	62	72	64	62
	数量や図形などについての知識・理解	61	57	56	62	57	56
領域	数と式	74	67	63	74	66	63
	図形	67	61	59	67	61	59
	関数	64	59	59	63	58	59
	資料の活用	45	44	44	47	45	44

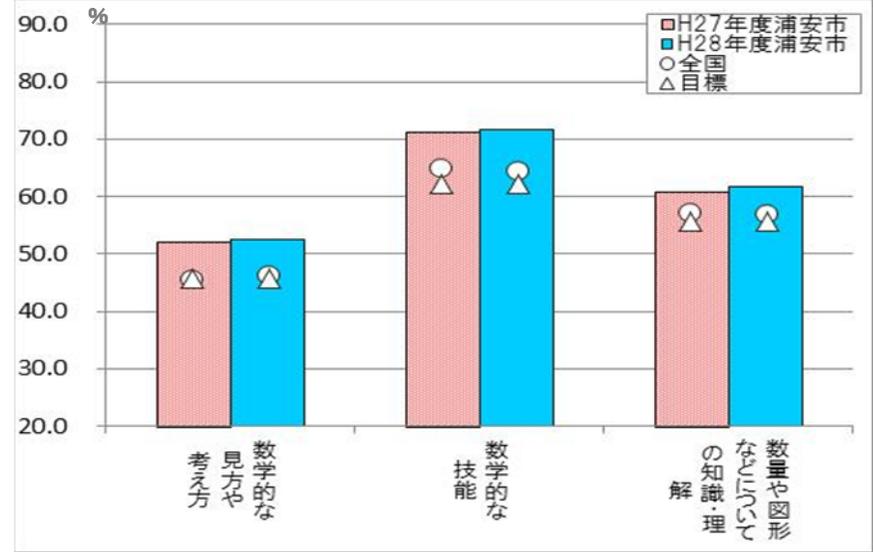
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

注釈

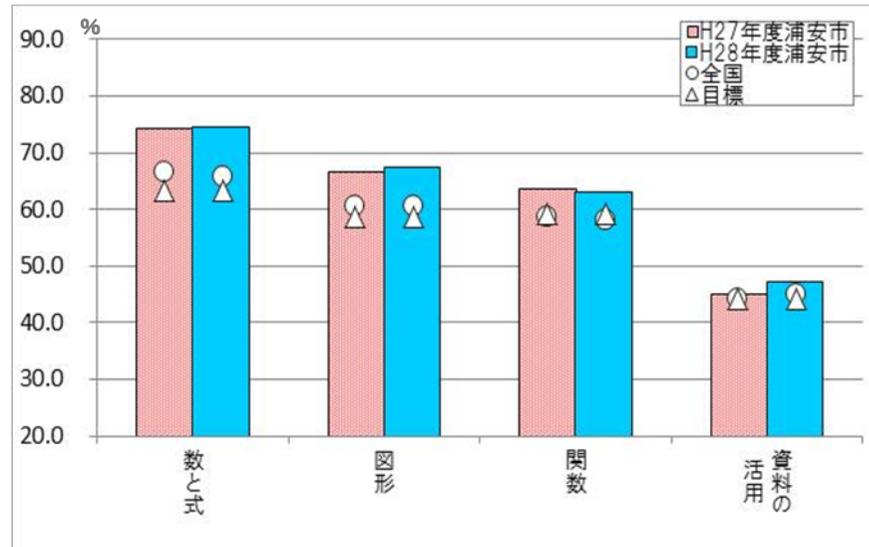
正答率を観点別にみると、H27年度と比べて、すべての観点においてほぼ同程度となっています。
 領域別においても、ほとんどの領域で昨年度とほぼ同程度となっていますが、「資料の活用」が2ポイント上回っています。

平成27年度と平成28年度 経年比較グラフ

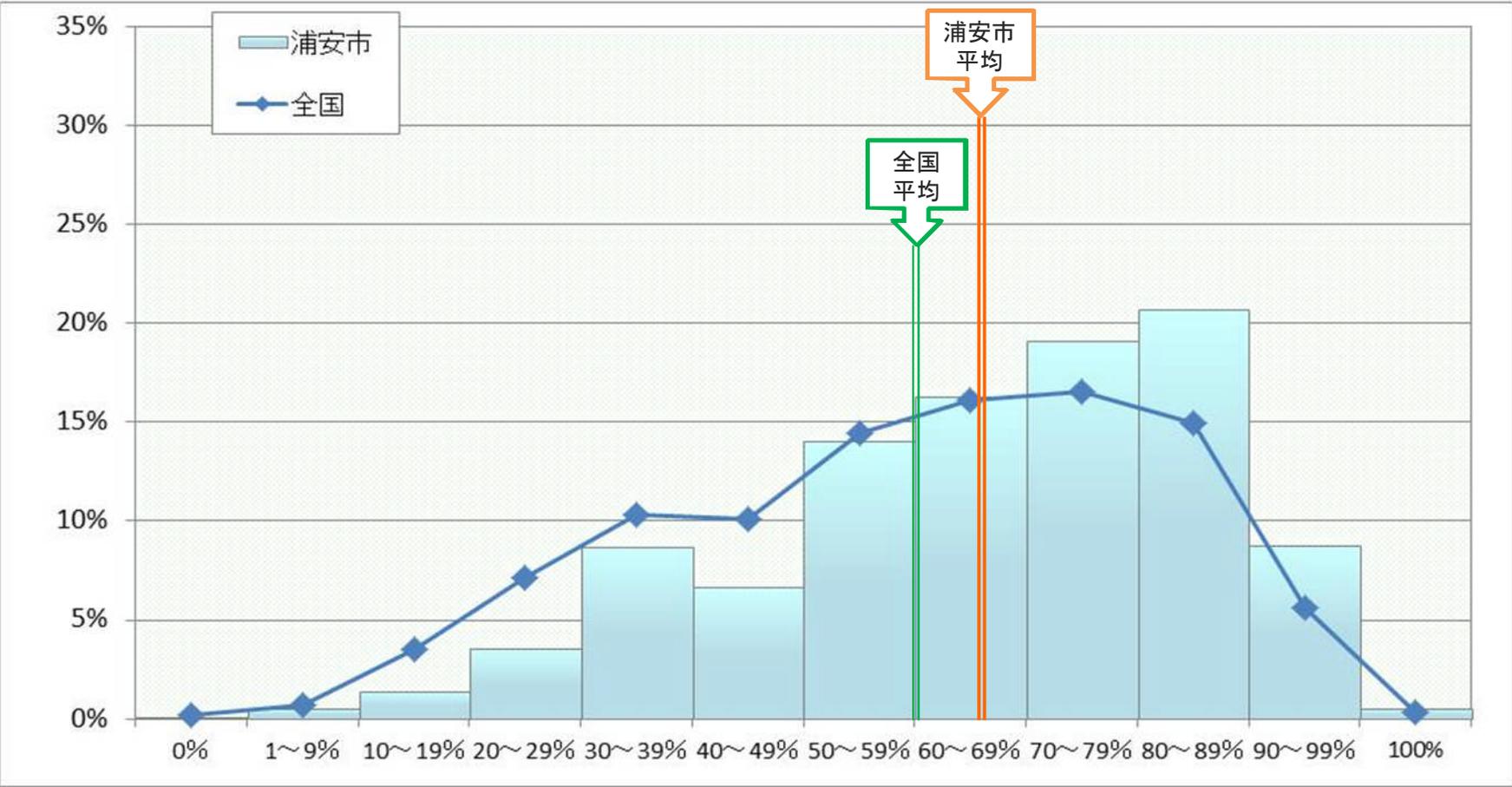
★観点別



★領域別



平成28年度 中学校2年数学 正答率分布グラフ



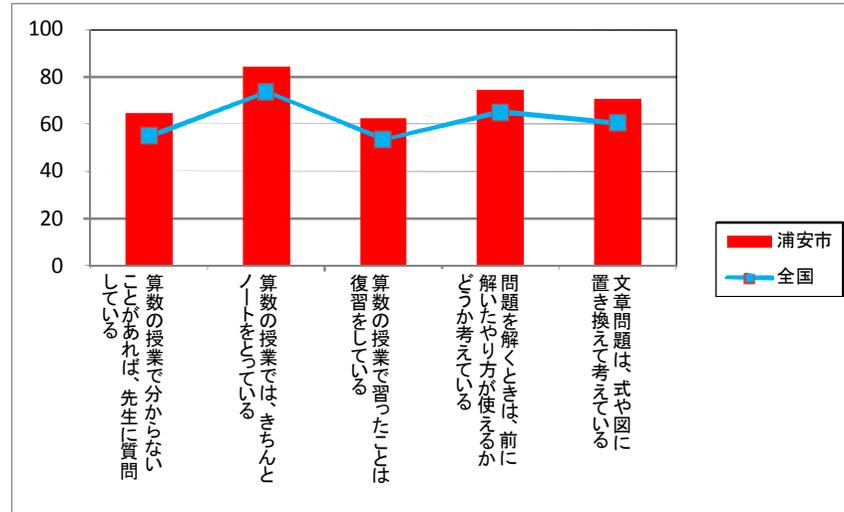
正答率分布
グラフ
について

浦安市の中学校2年数学の正答率分布をみると、正答率が70～99%の生徒の割合が全国を上回っていることがわかります。ただし下位層においては、全国の傾向と同様に30～39%の生徒の割合が高くなっています。
正答率が70%以上の生徒の割合は49%で、全国の37%を12ポイント上回っていますが、他の教科に比べて低い結果となっています。

平成28年度 中学校2年数学 質問紙調査結果

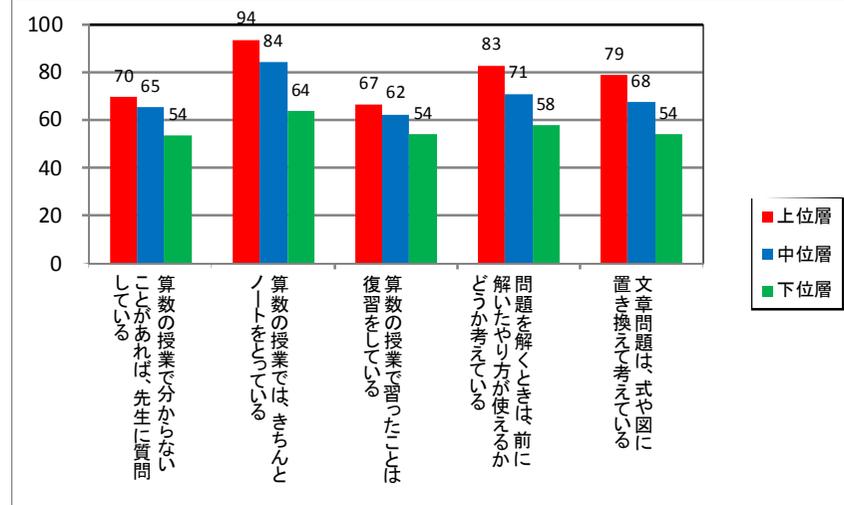
★浦安市全体と全国との比較

質問	浦安市	全国
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	65	55
数学の授業は、理解している	85	74
数学の授業で習ったことは、復習をしている	63	54
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	75	65
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	71	61



★上位層と下位層の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
数学の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	70	65	54	16
数学の授業は、理解している	94	84	64	30
数学の授業で習ったことは、復習をしている	67	62	54	13
問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている	83	71	58	25
文章問題は、式や図に置きかえて考えている	79	68	54	25



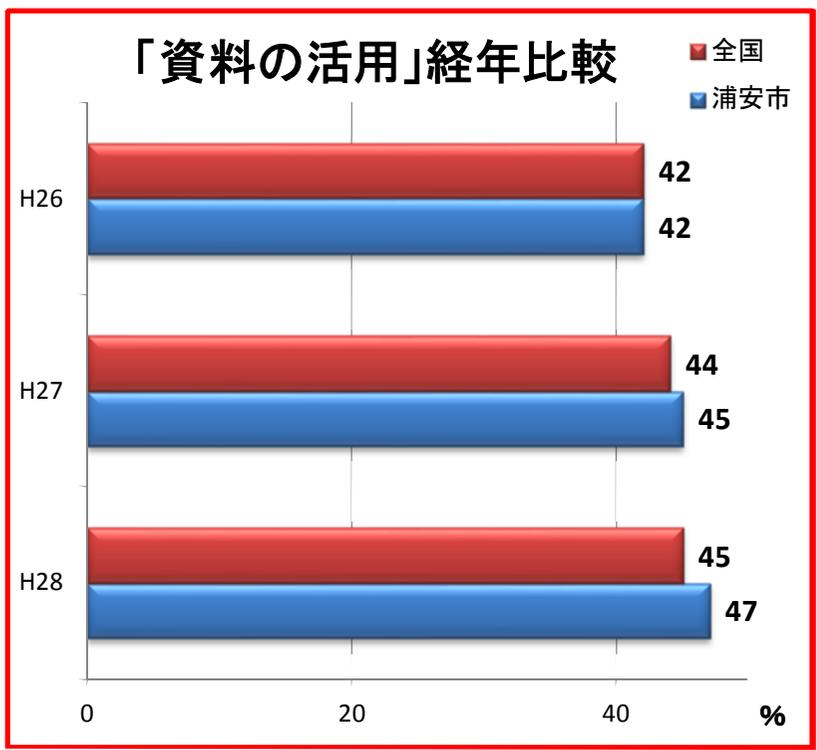
結果について

肯定的な回答の割合について、浦安市は全国と比べると、どの項目も全国を上回り、「数学の授業は理解している」の割合などが特に大きく上回っています。ただ、上位層と下位層の差に着目すると、「数学の授業は理解している」「問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている」「文章問題は、式や図に置きかえて考えている」の割合に特に大きな差があります。

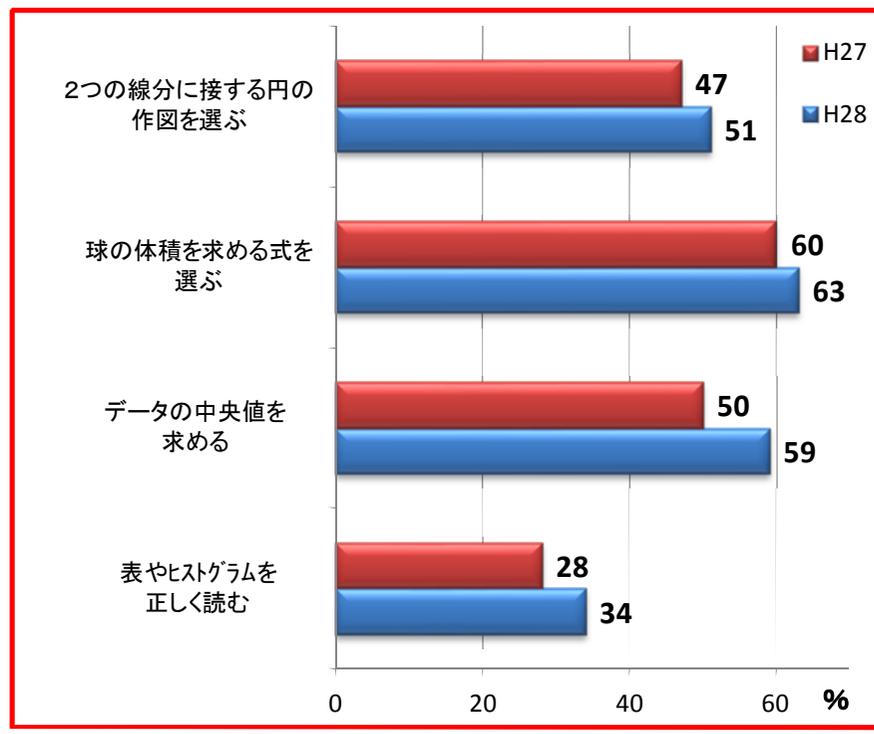


<優れている点・改善が見られた点>

【「資料の活用」の正答率が上昇】



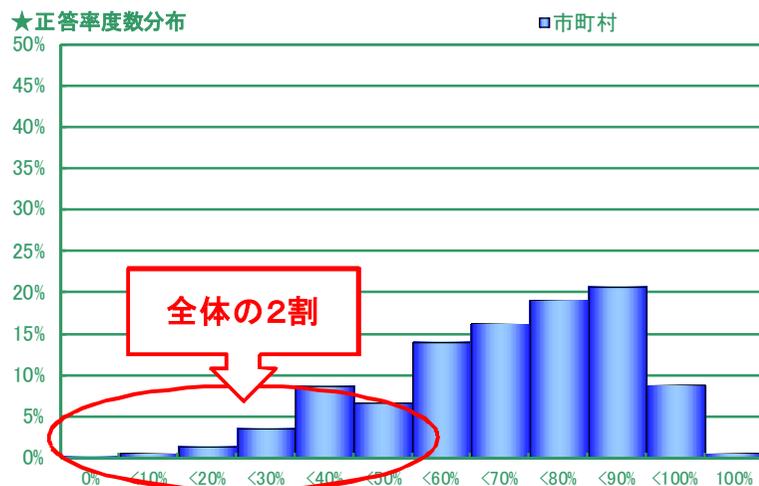
【昨年に比べ、正答率が3ポイント以上上回ったもの】



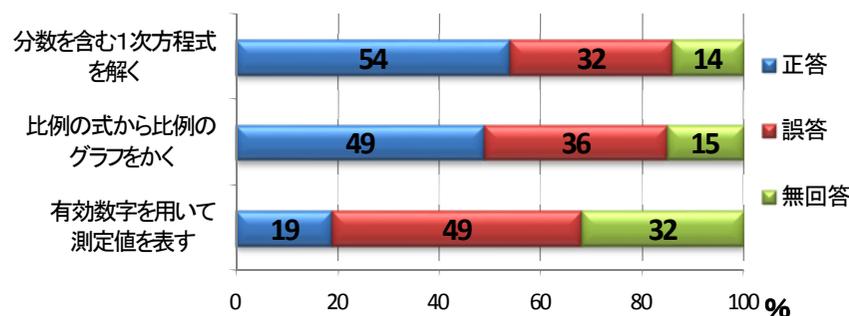
一昨年度、昨年度に課題となっていた「資料の活用」領域の正答率が、上昇傾向にあります。指導の改善が進んでいることがうかがえます。また、「図形」と「資料の活用」領域で、昨年に比べ正答率が3ポイント以上上回ったものが見られました。今後も、用語の意味や図形の性質を正しく理解するとともに、実験や操作活動を通じた実感をともなう授業の継続が望まれます。

<課題が見られる点>

正答率50%未満の
生徒の割合がおよそ2割



基礎問題で無解答率が高かったもの



正答率が70%以上の生徒の割合は、およそ50%で、全国を大きく上回っているものの、正答率が50%未満の生徒もおよそ20%存在しています。また、基礎問題でも無解答率が高かったものが見られました。少人数指導や学習形態の工夫を通し、個に応じた、きめ細かな指導が必要です。

<指導改善例>

【日常の取組】

- 見出した性質や方法を振り返ったり、説明したりする活動
 - 例) 作図の方法について、図形の性質と関連付けて振り返る
- 少人数指導・学習形態の工夫
 - 例) 習熟場面での習熟度別学習
小グループによる教え合い活動
- 学習場面に応じたICTの活用
 - 例) 課題把握場面・比較検討場面
- 生徒のつまずきの的確な把握
 - 例) 自己評価表、座席表の活用
- 「ちばのやる気」学習ガイド(千葉県教育委員会)の活用
- 単元の系統性をとらえ、小学校算数との接続を意識した教材研究
- 「生徒指導の機能を重視したわかる授業づくり」の取組

中 2 英 語

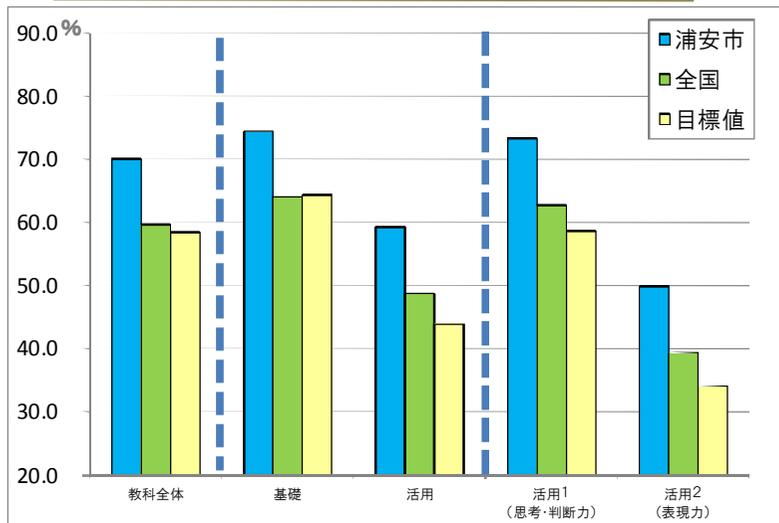


教科全体・観点別・領域別正答率 一覧表

分類	区分	平均正答率 (%)		目標値 (%)
		浦安市	全国	
教科全体		70	60	59
基礎		75	64	64
活用	思考・判断力	59	49	44
	表現力	73	63	59
観点	外国語表現の能力	50	39	34
	外国語理解の能力	73	63	59
	言語や文化についての知識・理解	74	62	63
領域	聞くこと	61	51	48
	読むこと	72	62	60
	書くこと	74	62	63

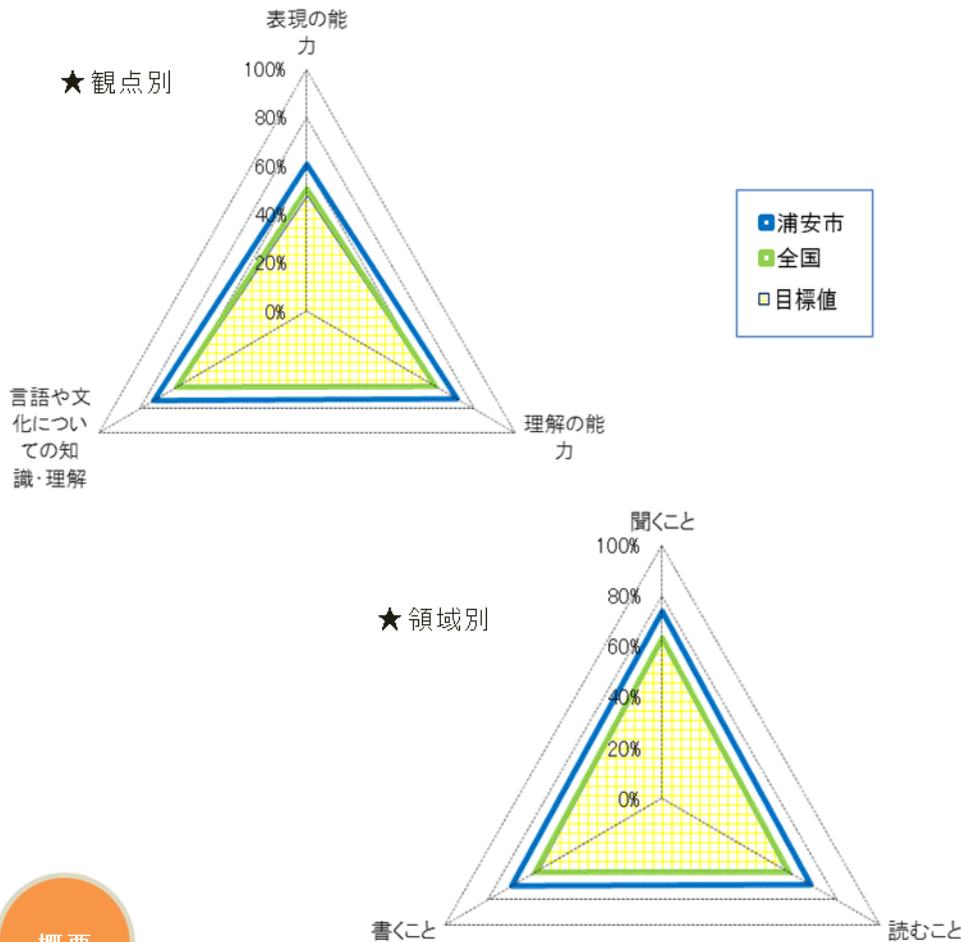
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

教科全体 基礎・活用別 正答率グラフ



「教科全体」は「基礎」と「活用」の合算値に、「活用」は「活用1」と「活用2」の合算値になっています。

観点別・領域別 レーダーチャート



概要

浦安市の教科全体の正答率(70%)は、全国値(60%)を10ポイント上回っています。
 全ての観点、領域において、全国値・目標値を大きく上回っており、指導の充実がうかがえます。

参考

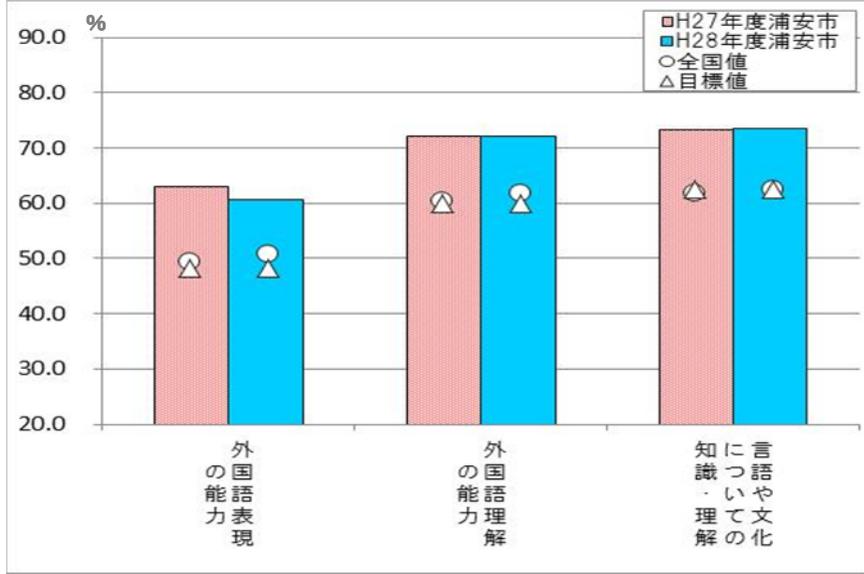
平成27年度と平成28年度 平均正答率一覧表

		平均正答率(%)					
		H27年度			H28年度		
		浦安市	全国	目標値	浦安市	全国	目標値
教科全体		71	59	59	70	60	59
観点	外国語表現の能力	63	49	48	61	51	48
	外国語理解の能力	72	60	60	72	62	60
	言語や文化についての知識・理解	73	62	63	74	62	63
領域	聞くこと	73	62	62	74	63	63
	読むこと	68	57	56	68	58	56
	書くこと	71	58	58	69	59	58

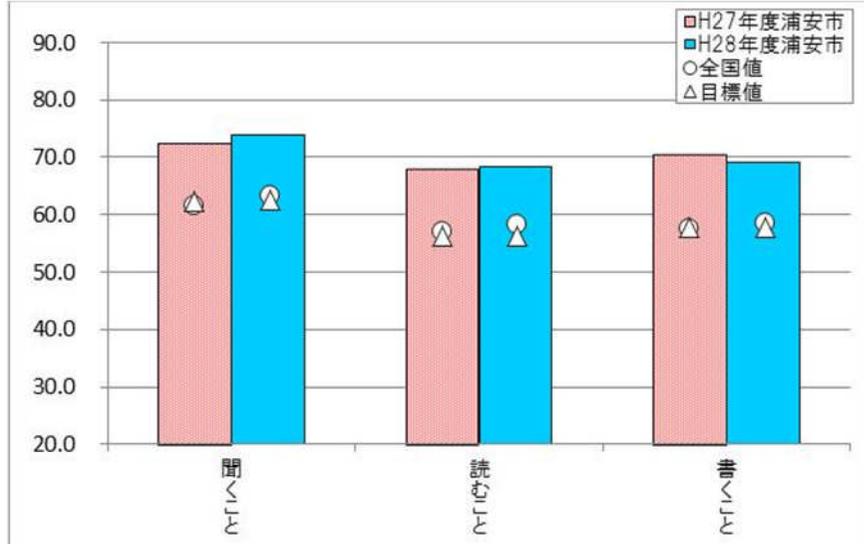
* 目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、小問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、「出題形式」や「解答形式」を基に初期設定した数値を、プレテスト等の検証を通じて適宜補正したものです。

平成27年度と平成28年度 経年比較グラフ

★観点別



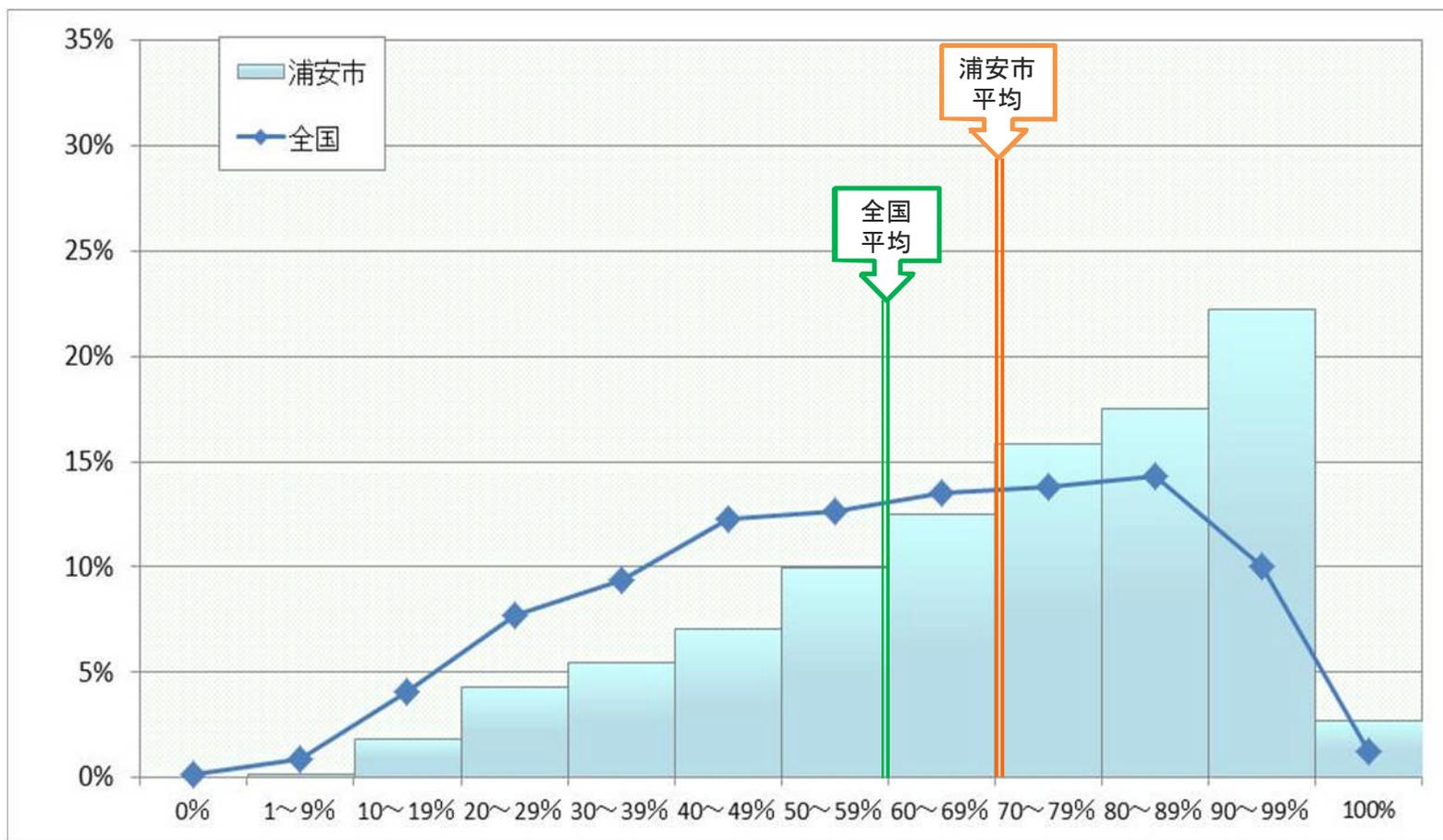
★領域別



注釈

教科全体の正答率は、H27年度と比べてわずかに下回っていますが、目標値・全国値に対しては大きく上回っています。
 観点別では「外国語表現の能力」が、領域別では「書くこと」が、昨年度と比べてわずかですが下回っています。

平成28年度 中学校2年英語 正答率分布グラフ



正答率分布
グラフ
について

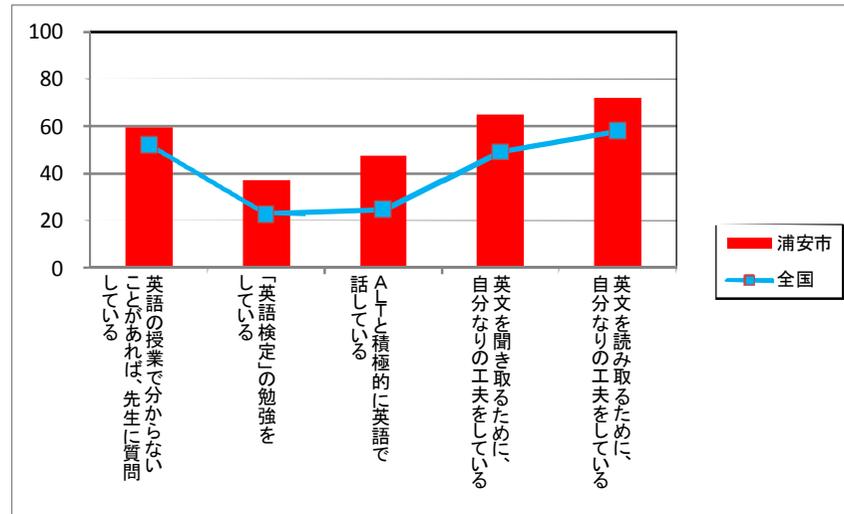
浦安市の中学校2年英語の正答率分布をみると、正答率が90～99%の生徒の割合が最も高く、全国と比べてもかなり高くなっていることがわかります。

正答率が70%以上の生徒の割合は58%で、全国(39%)を19ポイント上回っており、大変良好な結果と言えます。

平成28年度 中学校2年英語 質問紙調査結果

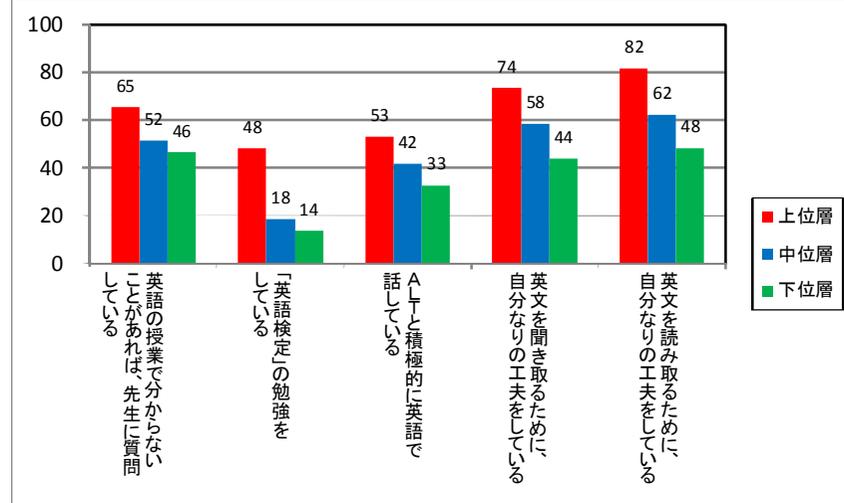
★浦安市全体と全国との比較

質問	浦安市	全国
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	60	52
「英語検定」の勉強をしている	37	23
ALTと積極的に英語で話している	47	25
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	65	49
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	72	58



★上位層と下位層の差

質問	上位層	中位層	下位層	上位-下位
英語の授業で分からないことがあれば、先生に質問をしている	65	52	46	19
「英語検定」の勉強をしている	48	18	14	34
ALTと積極的に英語で話している	53	42	33	20
英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている	74	58	44	30
英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている	82	62	48	34



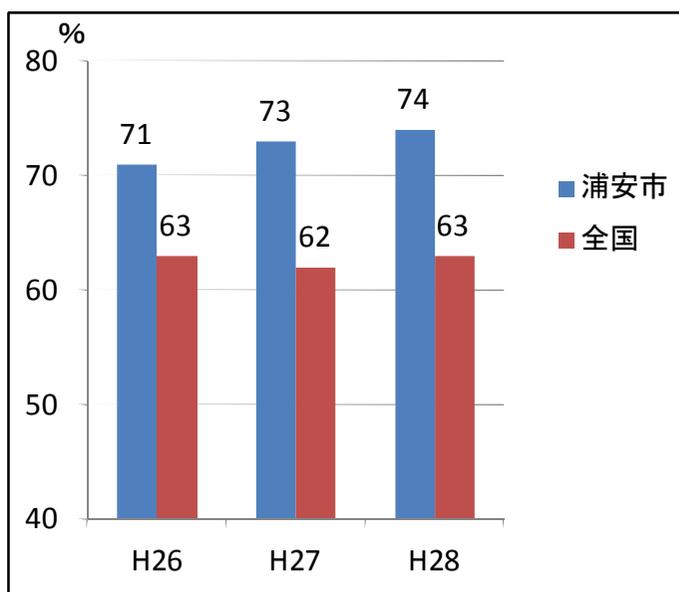
結果 について

肯定的な回答の割合について、浦安市は全国と比べると、どの項目も全国を上回り、「ALTと積極的に英語で話している」の割合などが特に大きく上回っています。上位層と下位層の差に着目すると、「『英語検定』の勉強をしている」「英文を聞き取るために、自分なりの工夫をしている」「英文を読み取るために、自分なりの工夫をしている」の割合に特に大きな差があります。

<優れている点・改善が見られた点>

【理解－聞くこと】の正答率が上昇

「理解－聞くこと」の正答率経年変化



リスニング（内容理解）において、特に「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる」の正答率が、昨年度を上回っています。

【語形・語法の知識・理解】の正答率が上昇

A: Whose books are these?

B: These are ().

1 our 2 us 3 ours 4 we

会話中の空所に適切な語を補う問題で、文脈を理解するとともに、文法的に最も適切な語彙を判断する問題形式になっています。この問いでは、疑問詞“Whose”の意味を捉え、所有代名詞“ours”を選ぶ必要があります。ちなみに、正答率は68%でした。人称代名詞の格は、中学1年生で確実に抑えておかなければいけない文法事項です。

上記の問題については、昨年度と比べて7ポイント（H27；61% → H28；68%）上回っています。
また、全国値（53%）と比べて15ポイント上回っています。

<課題が見られる点>

【表現】書くこと

正答率が低かった問題

▶場面に応じて書く英作文

- 相手に誕生日をたずねる場合

When is your birthday?

正答率 47%

- 相手にどうやって学校に来るか
(交通手段)をたずねる場合

How do you come to school?

正答率 24%

- ◆ 方法や手段を問う疑問詞 How の意味
- ◆ 疑問詞を含む疑問文の作り方
- ◆ 語彙のスペルミス

場面に応じて書く英作文について、特に「交通手段」をたずねる場合は、無回答率が19%と、他の問題と比べると高くなっています。教科書でも同様の表現に触れていますが、英文を書く場面になると正答率が低くなっている状況です。

<指導改善例>

【日常の取組】

- 定型表現は英作文の基礎であるため、確実に定着を図るようにする。
- スピーキングの活動で扱った表現をライティングにつなげる指導を行う。

【学校・学年の取組】

中1(接続期)

- 小学校外国語活動の音声中心の指導から文字指導への橋渡しを丁寧に行う。
- 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、実際に行う言語活動と関連付けて指導する。

全学年

- 4技能を統合させた言語活動の設定
一話す活動で終わりにするのではなく、聞く・読む・書く活動につなげる。

